

山 梨 県 北 杜 市

平 山 遺 跡

農産物処理加工施設建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

北杜市教育委員会

山 梨 県 北 杜 市

平 山 遺 跡

農産物処理加工施設建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

北杜市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、山梨県北杜市須玉町江草字平山で施工された農産物処理加工施設建設工事に伴う平山（ひらやま）遺跡緊急発掘調査の報告書である。
- 2 本調査の現地作業は、平成17年6月21日に着手し、平成17年7月22日に完了した。調査記録と出土品の整理作業は、平成17年8月25日に着手し、平成18年3月31日に完了した。
- 3 発掘調査の経費は、農産物処理加工施設の事業主体である北杜市が負担した。
- 4 発掘調査は北杜市教育委員会が直當で実施した。調査組織は下記のとおりである。

調査主体　北杜市教育委員会教育長 小清水淳三

調査担当　北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当 主査 佐野隆

調査事務局 北杜市教育委員会生涯学習課

- 5 本書の執筆、編集は、佐野があたった。

- 6 本遺跡の出土品及び調査に係わる諸記録は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。

- 7 確認調査の実施にあたって以下の方々と機関に、ご協力とご指導を賜った。ご芳名を記して感謝したい（五十音順・敬称略）。

安藤高道（巣鴨義塾大学）、小澤寛（須玉町江草区）、小林健二（山梨県埋蔵文化財センター）

- 8 調査参加者（五十音順・敬称略）

浅川英光、厚芝金夫、栗澤美香、石原すみえ、石渡節子、井手耕二、井手庄美、伊東加代子、井上町子、長田重子、小澤久恵、小野一英、小野芳江、片山和江、兼松章子、上村ゆきえ、河手寿子、小松原千津、酒井正道、篠原忠美子、清水貞子、清水里子、清水さゆり、清水尋、清水やす子、清水泰倫、下島綾美、鈴木節夫、田代武士、千葉綾、筒井つや子、壇てる子、野崎美智江、長谷川親愛、平島勝、伏見慈芳、藤原喜美子、水上勝美、三井喜満、三井つや子、皆川由紀子、皆川穂子、宮崎夏子、山田雅子、山中敏夫、八巻久子、八巻まさ子

凡　　例

- 1 報告書中の地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「若神子」「蘿崎」、5万分の1地形図「八ヶ岳」「蘿崎」「蹴沢」「金峰山」「御岳昇仙峠」「甲府」、須玉町役場「須玉町全図」（現版）、北杜市役所農政課作成「農産物処理加工施設設計図」を使用した。
- 2 図版及び觀察表中の遺構堆土色及び土器胎土色は、「新版標準土色範」財团法人日本色彩研究所に掲った。

本文目次

第1章 調査と遺跡の概要	1	第2章 遺構と遺物	8
第1節 両者の総説	•	第1節 住居跡	8
第2節 遺跡の概要と周辺の環境	1	第2節 土坑とピット	9
第3節 調査の範囲と方法	2	第3節 挖立柱建物跡	12

表 目 次

第1表 周辺の遺跡地名表	4	第4表 土器観察表	17
第2表 土坑調査表	13	第5表 石器観察表	19
第3表 ピット類表	15		

図版目次

第1図 周辺の遺跡	3	第11図 26号・27号土坑、出土遺物	25
第2図 遺跡の位置図	5	第12図 28号・36号土坑、出土遺物	26
第3図 調査区位図	5	第13図 土坑群A、出土遺物	27
第4図 調査区域詳細図	6	第14図 土坑群A、出土遺物	28
第5図 温室配置図	7	第15図 上坑群B・C、出土遺物	29
第6図 1号住居-1号住居跡焼却-39号土坑、出土遺物	20	第16図 土坑群C・土坑群D、出土遺物	30
第7図 2号住居、出土遺物	21	第17図 土坑群D	31
第8図 3号住居-3号住居跡焼却、出土遺物	22	第18図 土坑群E・F、出土遺物、堀立柱遺物	32
第9図 山上遺跡	23	第19図 山上遺跡	33
第10図 3号・21号土坑、出土遺物	24		

写真図版目次

写真図版 1 調査地点近景	34	写真図版 21 12号土坑	54
写真図版 1 1号住居跡	34	写真図版 22 13号土坑	54
写真図版 2 1号住居跡	35	写真図版 22 12号・13号土坑出土十石器	55
写真図版 2 1号住居跡焼却状況	35	写真図版 22 25号ピット	55
写真図版 3 1号住居跡半乾状況	36	写真図版 22 38号土坑	55
写真図版 3 1号住居跡焼却半乾状況	36	写真図版 22 59号土坑	55
写真図版 4 1号住居跡焼却状況	37	写真図版 23 60号土坑	56
写真図版 4 1号住居跡焼却体十石器	37	写真図版 23 38号・60号・44号・15号・23号・25号土坑出土十石器	56
写真図版 4 1号住居跡出土土器	37	写真図版 23 1号掘立柱見出物跡	56
写真図版 5 2号住居跡常温状況	38	写真図版 23 1号土坑	56
写真図版 5 2号住居跡土器	38	写真図版 24 8号土坑	57
写真図版 5 2号住居跡土土器	38	写真図版 24 9号土坑	57
写真図版 6 3号住居跡常温状況	39	写真図版 24 14号土坑	57
写真図版 6 3号住居跡出土土器	39	写真図版 24 15号土坑	57
写真図版 7 3号住居跡上セクション	40	写真図版 25 16号土坑	58
写真図版 7 3号住居跡出土土器	40	写真図版 25 17号土坑	58
写真図版 8 3号住居跡	41	写真図版 25 18号土坑	58
写真図版 8 3号住居跡半乾状況	41	写真図版 26 19号・20号土坑	58
写真図版 9 3号住居跡土器	42	写真図版 26 22号土坑	59
写真図版 9 3号住居跡土土器	42	写真図版 26 23号土坑	59
写真図版 10 3号土坑	43	写真図版 26 24号土坑	59
写真図版 10 21号土坑	43	写真図版 26 25号土坑	59
写真図版 11 26号土坑	44	写真図版 27 29号土坑	60
写真図版 11 27号土坑上層焼却状況	44	写真図版 27 32号土坑	60
写真図版 12 27号土坑下層石組検出状況	45	写真図版 27 33号土坑	60
写真図版 12 28号土坑上層焼却状況	45	写真図版 27 34号土坑	60
写真図版 13 28号土坑下層石組検出状況	46	写真図版 28 37号土坑	61
写真図版 13 3号・24号・7号・10号土坑出土土器	46	写真図版 28 39号土坑	61
写真図版 14 36号土坑	47	写真図版 28 41号土坑	61
写真図版 14 36号・39号・54号・68号土坑・遺構外出土土器	47	写真図版 28 42号土坑	61
写真図版 15 土坑群A(北西から)	48	写真図版 28 43号土坑	62
写真図版 16 7号土坑	49	写真図版 28 44号土坑	62
写真図版 16 10号・61号土坑	49	写真図版 28 45号土坑	62
写真図版 17 30号土坑	50	写真図版 28 48号土坑	62
写真図版 17 45号土坑	50	写真図版 29 50号土坑	63
写真図版 18 47号土坑	51	写真図版 30 51号土坑	63
写真図版 18 52号土坑	51	写真図版 30 54号土坑	63
写真図版 19 53号土坑	52	写真図版 30 56号・68号土坑	63
写真図版 19 62号・63号土坑	52	写真図版 31 57号土坑	64
写真図版 19 64号土坑	52	写真図版 31 58号土坑	64
写真図版 20 65号土坑	53	写真図版 31 61号土坑	64
写真図版 20 65号・67号土坑	53	写真図版 31 67号土坑	64
写真図版 20 66号土坑	53	写真図版 32 遺構外出土の石器	65
写真図版 20 66号土坑	53	写真図版 32 遺構外出土の石器	65
写真図版 21 5号土坑	54	写真図版 32 遺構外出土の石器	65
写真図版 21 66号・1号・8号・41号・67号・5号土坑出土土器	54		

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯

北杜市は、中山間地域の農業振興を目的とした農産物処理加工施設の建設を、北杜市須玉町江草字平山地内で計画した。建設予定地の一部は田園空間整備事業による農場整備工事が実施され、それに伴い須玉町教育委員会（当時）が、埋蔵文化財の有無、範囲を確認する試掘調査を行ってきた。この調査により、一部には縄文時代から平安時代にわたる小規模な集落跡（平山遺跡）が所在することが判明し、平成14年度には発掘調査が実施されている。

今回の農産物処理加工施設用地は、農場整備工事範囲の北東隣接地に当たり、平山遺跡の範囲内に含まれると予想された。そこで、北杜市教育委員会が平成16年度に、用地内で改めて試掘調査を実施したところ、縄文時代中期初頭、弥生時代、平安時代の土器破片等が出土し、住居跡らしき遺構も確認された。

北杜市教育委員会は、埋蔵文化財の保存をめぐって、事業主体である北杜市役所農政課、須玉総合支所産業振興課と協議したが、造成前では掘削が現地表面から深さ数メートルにも及び、現地での保存は不可能であるとの結論に達した。そのため、造成工事に先立ち、工事範囲2,000m²のうち造構と遺物が確認された1,669m²について、記録保存のための発掘調査を実施することとした（第4図）。この調査区域の東側1/3は、詳細なトレーン調査を実施し、遺構が確認されなかった。

この発掘調査に要した経費は、3,068,416円で、北杜市が負担した。この発掘調査に係わる事務手続きは次のとおりである。

文化財保護法第94条による通知	平成17年6月27日付け北杜須絆第714号
同通知に係わる指示文書	平成17年7月21日付け教文第1025号
文化財保護法第99条による発掘着手報告	平成17年8月2日付け北杜生字第590-3号
同条による発掘終了報告	平成18年4月18日付け北杜生字第103-4号
埋蔵物発見届	平成18年4月18日付け北杜生字第103-1号
埋蔵物保管請求書	平成18年4月18日付け北杜生字第103-2号
埋蔵文化財保管証	平成18年4月18日付け北杜生字第103-3号

本発掘調査の日程は以下のとおりである。

平成17年	6月21日～	調査対象地点の除草・測量
	6月21日～7月5日	重機による表土剥離作業
	7月6日～	発掘調査に着手
	7月22日	発掘調査終了・現場引渡し
	7月26日	整理作業に着手
平成18年	3月31日	整理作業を終了

なお、本調査終了後に、前述通り農産物処理加工施設が建設されている。

第2節 遺跡の概要と周辺の環境

本発掘調査では、縄文時代中期初頭の住居跡1軒と土坑、縄文時代中期中葉の土坑、弥生時代後期の住居跡2軒と掘立柱建物跡、土坑が検出されている。須玉町教育委員会による平成14年度発掘調査では、縄文時代中期末至利式期の住居跡数軒、集石土坑などが検出されている。

本遺跡は、茅ヶ岳山麓から秩父山系に連なる丘陵地と塩川の間に位置する。この丘陵地には幾筋かの小河川が

流れで塩川に注ぎ、遺跡はそうした河川のうちの湯戸の沢川と別小河川とに挟まれた緩斜面に立地している。これらの河川と遺跡との現比高差は相当にあり、遺跡では丘陵地から湧き出す伏流水を利用していたのかもしれない。

周辺は、江戸時代に開削された農業用水路「加納堀」を利用して水田が開かれており、近年は、農家の高齢化と農業後継者不足から耕作放棄地が増えている。

遺跡の南側15km、湯戸の沢川の南側の尾根上には、縄文時代中期末葉から後期、平安時代にかけての集落遺跡「上ノ原遺跡」がある。

第3節 調査の範囲と方法

発掘調査は、まず表土を30cmから1mほど重機で剥ぎ取った後、人力でもって精査し、遺構確認を行った。遺構検出面は疊が混じる黄褐色上で、暗褐色上で埋まつた住居跡等は容易に確認された。

遺構検出後は、遺構種別に応じて略記号を付した。略記号は次のとおりである。なお、遺構名は、現場作業での必要性から便宜的に付したものであり、遺構の性格等を分析したうえで遺構を評価し、決定したものではない。

P II - 数字	平安時代の堅穴住居
H O - 数字	掘立柱址物跡
I I S - 数字	配石遺構（主に中世の配石墓）
M Z - 数字	溝状遺構
S D - 数字	焼土
S Y - 数字	集石土坑
D K - 数字	土坑（直径50cm以上を土坑とした）
P T - 数字	ピット（直径50cm未溝で、柱穴と思われるもの）

調査の記録写真は、35mm一眼レフデジタルカメラ、6×7判中型カメラで撮影した。

出土遺物は、遺構に伴うと思われるものは遺構毎に、また遺構外の出土品は、遺構外を示す略記号「TG - 数字」を付して、それぞれ光波測量器を用いて出土位置を測量・記録して取り上げた。これら以外に、重機による表土剥ぎ取り作業等で出土した遺物は、遺跡・括弧内として取り扱った。

遺構の形状は、原則として光波測量器を用いて測量・作図した。また必要に応じて手実測による微細図を作図した。報告書中に記載する高度数字は標高である。測量基準点は、事業者が道路工事設計の際に設けた公共座標基準系による基準点から測量して設置したもので、その精度は4級基準点と同等程度である。

整理作業では、出土品を洗浄後に、すべての出土品を対象に注記作業を行った。整理作業の過程で、現場での取り上げ遺構名に齟齬があることが判明した場合もあったが、訂正による混乱を防ぐために、現場で付した取り上げ記号・番号を変更することなく、そのまま注記した。

遺跡は調査終了後に北杜市役所農政課へ引き渡し、計画通り農産物処理加工施設が建設された。本発掘調査に係る諸記録、出土品は、全て北杜市埋蔵文化財センターに保管してある。

参考文献

須玉町教育委員会 2003 「半山遺跡 一田園空間整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」



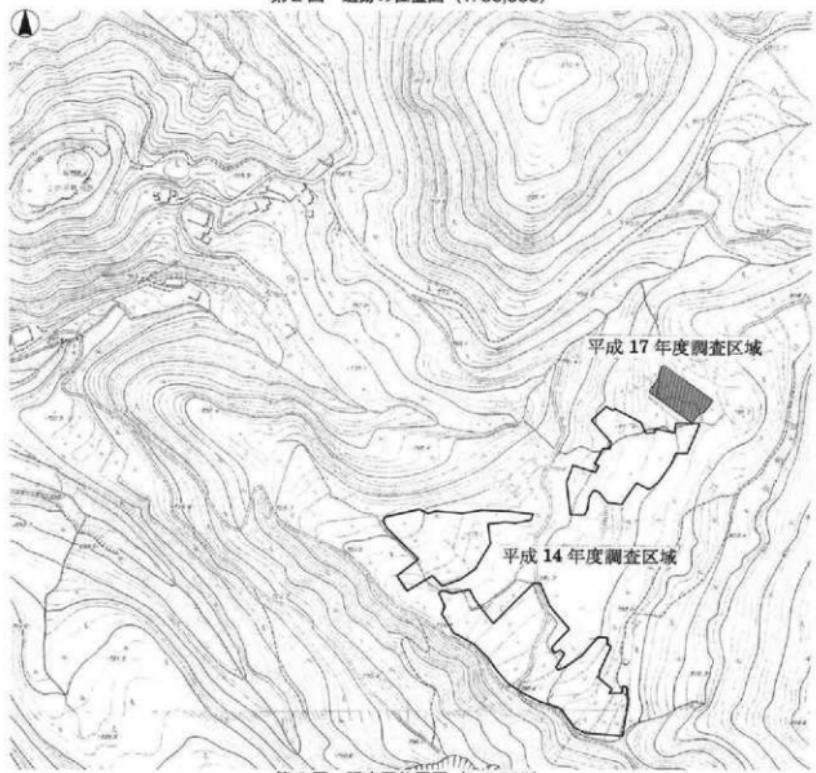
第1図 周辺の遺跡

第1表 地名の変遷

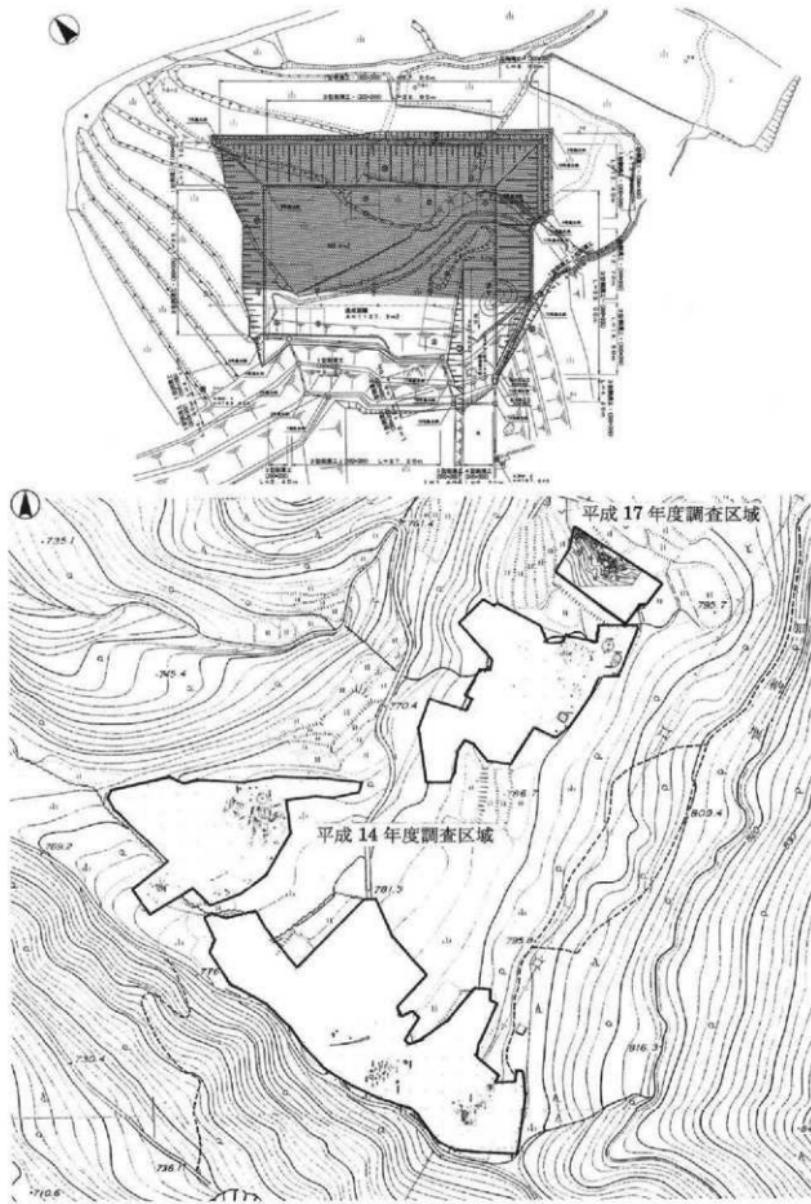
番号	道路名	所在地	時期	遺構	出典	発行年度	発行機関
1	平山	北杜市須玉町	縄文・弥生時代・後期	住居跡・竪立柱遺物	西原遺跡・当町遺跡	1987	高根町教育委員会
2	当町	北杜市高根町	縄文・弥生時代・後期	遺物のみ出土	金山遺跡（縄文時代層）	1989	山梨県教育委員会
3	金生	北杜市大泉町	縄文時代後期	住居・蛇石群	山梨県中央道遺跡文化財と歴史を学ぶ会調査報告書	1994	山梨県区民健康生活運動調査団
4	船坪 A	北杜市長坂町	弥生時代後期	住居 1 戸	佐野村遺跡	1991	白州町教育委員会
5	健東村	北杜市長坂町	縄文時代後期	中堅遺物のみ出土	尾崎村遺跡	1996	長坂町教育委員会
6	圓敷平	北杜市白州町	弥生時代末～古墳時代初期	方形陶製瓦群	山梨県中央道遺跡文化財と歴史を学ぶ会調査報告書	1975	北杜市教育委員会
7	北丸	北杜市長坂町	弥生時代後期	中期・後期遺物のみ出土	後田遺跡	2005	北杜市教育委員会
8	圓田 A	北杜市須玉町	弥生時代後期	中期・後期遺物のみ出土	野沢木・日通路・池の下遺跡・諸石 II・中村遺跡経緯	1990	明野村教育委員会
9	後田	北杜市須玉町	土坑 5 基	地の木遺跡 II	地の木遺跡	2003	明野村教育委員会
10	北丸遺跡	北杜市明野町	弥生時代前半	遺物のみ出土	源氏の足跡	2004	須玉町教育委員会
11	梅之木	北杜市須玉町	弥生時代後期	住居 9 戸	須玉町教育委員会	1976	山梨県教育委員会
12	高砂	北杜市須玉町	住居 13 戸	遺物のみ出土	多屋前遺跡	2001	須玉町教育委員会
13	鹿谷新	北杜市須玉町	弥生時代後期	遺物のみ出土	深山田・下反保・蘿野・コ坂上川	2002	園部町教育委員会
14	大屋牛田	北杜市須玉町	土坑 1 基	石之井遺跡（事地区）	2000	石之井流域保存調査会	
15	多屋前	北杜市須玉町	土坑 5 基	遺物のみ出土	金山遺跡・下木戸遺跡・中通遺跡	1986	蓮誠村教育委員会
16	下反保	北杜市明野町	弥生時代前半	土坑 20 基	下大内遺跡・医務・赤堀第 2 遺跡・中通遺跡	1987	明野村教育委員会
17	石之井	韮崎市	弥生時代後期	遺物のみ出土	中田小学校遺跡	1985	韭崎市教育委員会
18	中通	韮崎市	弥生時代後期	土坑 1 基（雨母墓）	宮ノ前遺跡	1982	韮崎市教育財團会
19	下大内	北杜市明野町	弥生時代後期	住居 3 戸	中本田遺跡	1987	韮崎市教育委員会
20	中田小学校	韮崎市	弥生時代後期	水田跡	後田第 1 遺跡	1997	韮崎市教育委員会
21	宮ノ前	韮崎市	弥生時代前半	宮ノ前遺跡	後田第 2 遺跡	1996	韮崎市教育委員会
22	後田第 1	韮崎市	後田時代後期	住居 4 戸	下側遺跡	1991	韭崎市教育委員会
23	後田第 2	韮崎市	後田時代後期	住居 5 戸	三高池遺跡	1998	韭崎市教育委員会
24	後田第 3	韮崎市	後田時代後期	住居 8 戸			
25	下側	韮崎市	縄文時代後期～後世時代初期	遺物のみ出土			
26	三高池	韮崎市	縄文時代後期				



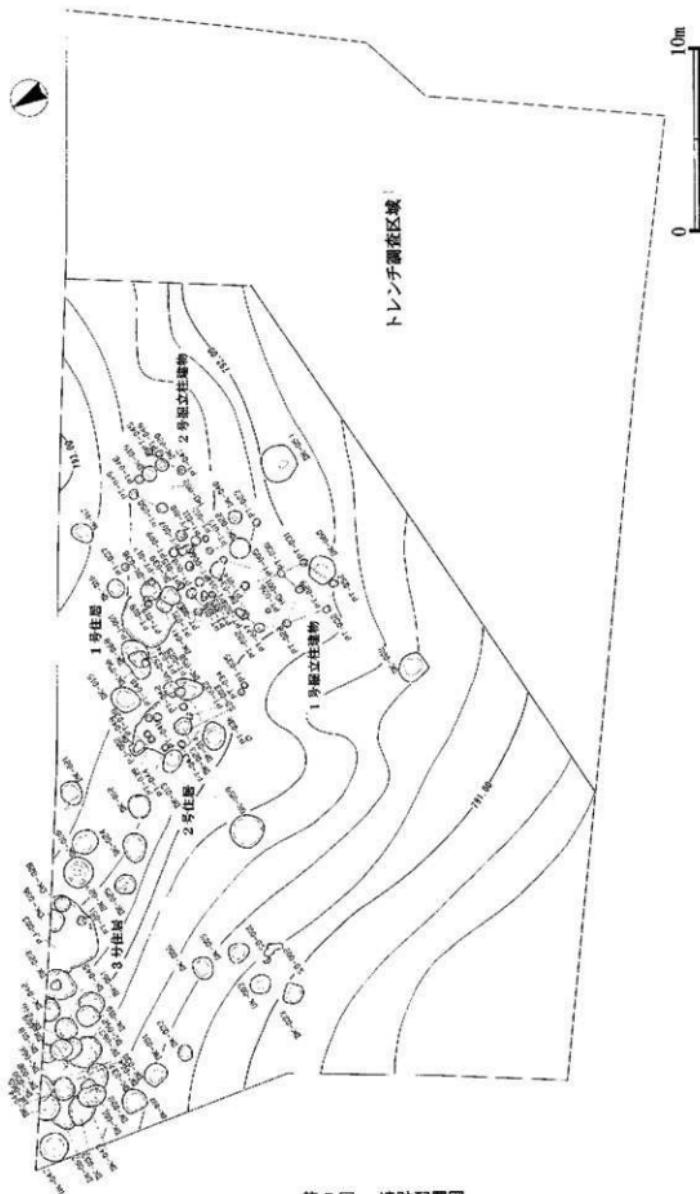
第2図 遺跡の位置図 (1/50,000)



第3図 調査区位置図 (1/5,000)



第4図 調査区域詳細図



第5図 遺跡配置図

第2章 遺構と遺物

本遺跡では、縄文時代中期の住居跡と土坑、弥生時代中後期の住居跡と掘立柱建物跡、土坑が検出されている。以下、3軒の住居跡と掘立柱建物跡、土坑とピットのうち主なものの調査所見と出土品を報告する。

なお、土坑は概ね直径が50cmを超えるもの、ピットは50cm未満のものと便宜上区分して命名しており、現場調査で遺構の性格を吟味した上での命名ではなく、また若干の認定間違いのあること（ピットと命名したが調査の結果、直径50cmを超えた場合など）をお断りしておく。

第1節 住居跡

1号住居 (PJ-1 第6図、写真図版2~4)

推定長軸3m、短軸2.8mの梢円形の堅穴住居で、確認面からの掘り込みは深さ10cmほどであった。住居の南端には土坑が重複し、住居の輪郭を確認できなかった。遺構確認面は耕作や樹根による攪乱で土壤が不安定しておらず、これらの土坑と住居の新旧関係は確認できなかった。土坑については後述する。

竪穴は浅いため土層図を実測しなかったが、黒褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/4)が5%ほど混じる細粒土で、小燃や炭化物が若干混じる。しまりは強くなく、移植ゴテで容易に掘り下げることができた。

床面は軟弱で、硬くしまった貼床が検出されなかったため、調査では床を掘り下げすぎてしまった。住居内部の北寄りには埋糞炉と焼土が検出された。柱穴等は検出されなかった。

探査用の炉体土器等から本住居は弥生時代後期と思われる。この土器（第6図5）は、胴部のみが残り、口縁部と底部が打ち欠かれている。現存重量は330gである。胴部に櫛接波状文を横位に施文し、器の内外面をきれいに磨いている。

住居からの出土品は、弥生時代後期の櫛接波状文、条痕文、口唇部に刻みを施した土器などの破片30点346g、縄文時代の上器破片39点544g、墨曜石剥片10点29gである。

2号住居 (PJ-2 第7図、写真図版5)

おそらく梢円の平面形になると思われる堅穴住居で、確認面からの掘り込みは最大で深さ10cmほどであった。住居南側では住居の平面形を確認できなかった。数基の土坑と重複するが、1号住居と同様に住居と土坑の新旧関係は確認できなかった。住居場所は1号住居と同様である。

床面は軟弱で、硬くしまった貼床は検出されなかった。直径40cmほどのピット8基が検出され、これらはおおむね梢円に配置されており、柱穴と思われる。ただし、いずれのピットも非常に浅く、深さは6cmから13cm程度である。炉跡は確認されず、わずかに23号土坑に接して床面が焼土化した箇所が検出された程度である。

出土品は、少量で、弥生時代後期の土器2個体の破片54.6g、上器破片14点160g、縄文時代早期と中期の土器破片5点42g、黒曜石製石像破片1点0.35g、黒曜石剥片5点1.3g、真岩剥片1点24gである。本住居は1号住居と形状が共通することと出土品から、弥生時代後期の遺構と思われる。

3号住居 (PJ-3 第8図~第10図、写真図版6~9)

調査区の北端で検出された堅穴住居で、確認面からの掘り込みは深さ30cmであった。硬くしまった床面は検出されなかったが、第8図に示した土層図の第5層が床と思われる。柱穴が1基(PJ51)確認された。住居の中央と思しき箇所で、埋糞炉を検出した。第8図1のが土器を埋設してある。

本住居は、3基の土坑と重複する。28号土坑(DK28)は本住居の上層観察では住居が土坑を切るようにみえたが、この土坑から弥生時代後期の上器破片2点が出土している。29号、30号土坑(DK29、DK30)からも弥生時代

後期の土器破片が出土しており、いずれの土坑も住居よりも新しい遺構である可能性が高い。

なお住居確認面では埋土が特に黒く礫が集中する箇所があつたため、49号土坑、55号土坑として調査したが、調査の結果、土坑ではなく住居埋土の一部であることが判明した。

本住居の出土品は、炉体上器1点2570g、縄文時代中期の土器破片141点2711g、黒曜石製石器破片1点0.7g、石器未成品1点1.3g、黒曜石剥片38点40.7g、貝岩剥片8点158.4g、水晶剥片1点1.1g、磨石円石6点2.600g、石皿2点9.040g、台石破片1点515g、弥生時代の土器破片4点99gである。縄文時代中期の土器はほとんどが中期初頭五領ヶ台式で、ほかに井戸尻式土器の破片がわずかに混じる。ほぼ完形の石皿(10図1)は、埋土の礫集中の遺構確認面で出土している。

本住居は、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式期の遺構と思われる。

第2節 土坑とピット(第6図、第10図～第19図、写真図版10～31)

縄文時代中期中葉から弥生時代にかけての土坑68基が検出された。ここでは特徴的な土坑のみを報告するが、全土坑の位置と属性は第5図、第13図、第15図、第16図と第1表に示した。

3号土坑(DK-3 第10図、写真図版10・13)

調査区西寄りで検出された土坑で、長軸115cm、短軸103cm、確認面からの深さ30cmの円形土坑である。埋土は暗褐色土に褐色土が混じる細粒土で、礫数個が出土している。出土品は、縄文時代早期の横維が沈入する土器破片2点22g、弥生時代の条痕文土器破片1点7g、黒曜石製石器破片1点1.7g、貝岩剥片1点1.7gである。

21号土坑(DK-21 第10図、写真図版10・13)

調査区西寄りで検出された土坑で、長軸130cm、短軸110cm、確認面からの深さ30cmの円形土坑である。埋土は黒褐色土に暗褐色土が混じる粗粒土で、多数の礫が出土している。出土品は、縄文時代中期五領ヶ台式の土器破片6点98g、黒曜石剥片3点3gが壁に混じって出土した。

26号土坑(DK-26 第11図、写真図版11・23)

3号住居跡の東側2mで検出された土坑で、長軸14m、短軸1.25m、確認面からの深さ40cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、大小の礫が混じっている。出土品は、縄文時代早期、中期の土器破片各1点、弥生時代の土器破片5点、貝岩製打製石斧破片1点53g、黒曜石剥片6点1.4g、瓦片1点36gがある。

27号土坑(DK-27 第11図、写真図版11・12・13)

3号住居跡の東側1mで検出された土坑で、長軸1.65m、短軸1.6m、確認面からの深さ40cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、上層に大小の礫が混じっている。礫には顕著な被熱痕がみられなかった。土坑の底面には平石6枚が敷き並んでおり、これらの平石には被熱痕が認められた。埋土上層の礫層と土坑底面の平石との間には、炭化物に由来すると思われる黒色土が検出された。

出土品は、縄文時代中期初頭の土器破片5点54g、円石1点570gがある。

28号土坑(DK-28 第12図、写真図版12・13)

3号住居西側で住居跡と重複して検出された土坑で、推定長軸1.9m、短軸1.6m、確認面からの深さ45cmの円形土坑である。埋土はややしまった黒褐色土で、埋土上層から下層まで非常に多くの礫が混じっている。27号土坑と同様に土坑底面には石を敷き詰めた窪みが検出された。この窪み内には炭化材小片が混じる黒色土が堆積していた。27号土坑に類似した土坑である。

出土品は、縄文時代早期と思われる土器破片1点31g、前期米葉と思われる土器破片1点38g、中期の土器破片8点128g、黒曜石破片7点2gが検出された。

36号土坑(DK-36 第12図、写真図版14)

3号住居と重複して検出された土坑で、長軸1.2m、推定短軸1m、確認面からの深さ25cmの円形土坑である。

埋土はややしまった暗褐色土で、大小の砾10個ほどが混じっている。3号土坑より新しい土坑である。

出土品は、縄文時代の土器破片21点282g、弥生時代の土器破片2点8gが検出された。

土坑群（第13～16図、写真図版15）

調査区域の北西部分を中心にした区域で重複した多数の円形土坑が検出された。出土品は、縄文時代の土器破片、弥生時代の条痕文をもつ土器破片がある。密集して重複しているため、個別の土坑を識別して発掘することができず、確認面全体を数十センチほど下げて土坑底部を検出し、個々の土坑を識別する調査方法を探った。そのため、エレベーション図等に表現された土坑の掘り込みは非常に浅くなっている。以下、便宜上、土坑群A～Fに区分して、主なものを報告する。

土坑群A（第13・14図、写真図版15）

調査区の北西部分に該当する。多数の土坑が重複する。出土品から弥生時代の遺構が多いと判断される。

7号土坑（DK-7 第13図、写真図版16・13）

直径1mほどの不整形土坑で、大小の砾を含む。弥生時代の条痕文土器破片2点45g、黒曜石剥片3点4.3g、石材破片2点210gが出土している（第13図1・2）。

10号土坑（DK-10 第13図、写真図版16・13）

直径1mの円形土坑で、61号土坑と重複する。新旧関係は確認できなかった。縄文時代の土器破片13点137gのほか弥生時代の条痕文土器破片3点18gが出土した（第13図3）。

61号土坑（DK-61 第13図、写真図版16・31）

直径1mほどの円形土坑で、10号土坑と重複する。新旧関係は不明である。弥生時代の条痕文土器破片、ヘラ状の石器が出土している（第13図4・5）。

30号土坑（DK-30 第14図、写真図版17・20）

周辺の土坑と激しく重複する。63号土坑に切られる。弥生時代の条痕文土器破片3点25g、縄文時代の土器破片11点150g、黒曜石剥片1点0.4g、貝岩剥片1点5gが出土している（第14図1）。

45号土坑（DK-45 第14図、写真図版17）

直径1mほどの円形土坑で大小の砾を伴う。縄文時代の土器破片6点112g、黒曜石剥片5点1.7gが出土した。

47号土坑（DK-47 第14図、写真図版18・20）

直径1.5mのやや大きな円形土坑で、大小の砾多数を伴う。弥生時代の条痕文土器破片4点72g、縄文時代の土器破片3点72g、貝岩剥片1点8gが出土した。

52号土坑（DK-52 第14図、写真図版18）

直径0.8mのやや小さな円形土坑で、1号土坑、37号土坑、43号土坑、64号土坑などと重複する。52号土坑は、37号土坑より新しく、また1号土坑と43号土坑よりは古い構造である。出土遺物はない。

53号土坑（DK-53 第14図、写真図版19・20）

直径1.2mの楕円形土坑で、周辺の土坑と重複する。新旧は不明である。弥生時代の条痕文土器の底部破片が出土している。

62号土坑（DK-62 第14図、写真図版19・20）

直径1mほどの円形土坑で、46号土坑と63号土坑に切られる。縄文時代中期の土器破片が出土した（第14図4）。

63号土坑（DK-63 第14図、写真図版19）

直径1mほどの円形土坑で、砾を伴う。46号土坑に切られ、30号土坑と62号土坑を切る。出土遺物は弥生時代の条痕文土器破片3点40g、縄文時代中期初頭の土器破片1点7g、黒曜石剥片10点1.9gがある。

64号土坑（DK-64 第14図、写真図版19）

直徑 1m ほどの円形土坑で、1 号、8 号、43 号、51 号土坑に切られ、30 号、65 号、67 号土坑を切る。これら の重複関係から弥生時代の遺構と推測される。出土遺物には縄文時代中期初頭の土器破片 5 点 54g、黒曜石剥片 3 点 0.8g が出土している。

65 号土坑 (DK-65 第 14 図、写真図版 20)

44 号、50 号、64 号、67 号土坑に切られ、土坑の原型がほとんど分からぬが、縁が検出されている。弥生時代の条痕文土器破片 2 点 29g が出土している。

66 号土坑 (DK-66 第 14 図、写真図版 20・21)

30 号、50 号土坑に切られる。推定直徑 1m 程度の円形土坑で、拳大の縁と土器破片が出土している。出土遺物には、縄文時代早期の土器破片 1 点 2g、中期の土器破片 4 点 64g、弥生時代の土器破片 1 点 13g、黒曜石剥片 3 点 27g がある。弥生時代と思われる細密な縄文地紋の土器破片を示した。

土坑群 B (第 15 図)

土坑群 A の南側に該当する。土坑 4 基のほか焼土跡が検出されている。焼土跡の出土品はなかった。

3 号土坑 (DK-3 第 15 図、写真図版 10・13)

長軸 115cm、短軸 100cm、深さ 30cm ほどの土坑で、数枚の半石と縁がまとめて検出された。図示できる出土品はなかったが、微小な土器破片が数点出土した。出土遺物は、縄文時代早期の繊維が混入した土器破片 2 点 22g、弥生時代の条痕文土器破片 1 点 7g、黒曜石剥片 1 点 1.7g、頁岩剥片 1 点 1.7g がある。

5 号土坑 (DK-5 第 15 図、写真図版 21)

径 100cm、深さ 20cm ほどの土坑で、土坑壁と底には地山の縁が露出ししている。出土遺物は縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器など 8 点 38g、弥生時代の櫛指波状文土器破片 1 点 10g (第 15 図 4)、黒曜石剥片 4 点 2.6g、頁岩剥片 1 点 72g がある。

6 号土坑 (DK-6 第 15 図、写真図版 20)

径 120cm、深さ 22cm ほどの土坑で、埋土には炭化材破片が多く混じっていた。平石数枚と縁がまとめて検出されている。出土遺物は胎土質から弥生時代と思われる無紋の土器破片 3 点 18g があるが、図示できるものはなかった。

土坑群 C (第 15 図)

2 号住居周辺に該当する。

12 号土坑 (DK-12 第 16 図、写真図版 21・22)

径 115cm、深さ 15cm の土坑で、縄文時代中期初頭、五領ヶ台式土器破片 (第 16 図 2) がまとめて出土しているほか、前期末葉と思われる土器破片 (第 16 図 1)、黒曜石剥片 3 点 3.4g が出土した。

13 号土坑 (DK-13 第 16 図、写真図版 21・22)

径 90cm ほどの土坑で、2 号住居と重複するが新旧は判別できなかった。弥生時代の条痕文土器 (第 16 図 4)、櫛指波状文土器 (第 16 図 3) などの破片が出土しているほか、縄文時代中期初頭の土器破片 2 点 36g、黒曜石剥片 1 点 1.8g、石材破片 1 点 51g がある。

25 号ビット (PT-25 第 16 図、写真図版 22)

時期不明の 57 号、58 号土坑を切るやや小ぶりの土坑で、現地調査ではビットとして扱ったが、建物跡ではないようである。縁とともに縄文時代中期と思われる土器破片 3 点 164g が出土している。図示できるものはないが、輪積痕が明瞭な藤内式と思われるもの、沈線の垂下文がある曾利式と思われるものがある。

土坑群D（第16図）

1号住居南東に該当する。

38号土坑（DK-38 第16図、写真図版22・23）

弥生時代の住居跡と思われる1号住居と重複する。径100cm、深さ30cmほどの円形の土坑で、17号、18号ピットに切られる。埋土には、地中から出土したと思われる風化した礫が混じっている。第16図5の衝撃波状文土器など弥生時代の条痕文系土器破片2点11gが出土したほか、縄文時代前期末から中期初頭の土器破片12点114g、黒曜石剥片2点0.8g、石英破片1点0.3g、頁岩剥片点2.4gが出土した。

土坑群E

59号土坑（DK-59 第18図、写真図版22）

土坑底部で礫が環状に並んでいるようにみえる、径175cm、深さ20cmの円形土坑。出土遺物には、縄文時代中期初頭の土器破片3点374gがある。

土坑群F

60号土坑（DK-60 第18図、写真図版23）

径155cm、深さ80cmの円形土坑で、大きな礫など数個が埋土で検出された。出土遺物には、縄文時代中期の土器破片4点31.2g、弥生時代と思われる細密な繩文が施された土器破片1点14.4g（第18図1）がある。

ピット

土坑群Dの区域では柱穴状のピット20基程度検出されている。そのうち45号、47号、49号、50号ピットは2号掘立柱遺物跡を構成する。

ピットの出土品は少なく、5号ピットで時刻不明の土師器もしくはかわらけ破片2点5g、7号ピットで縄文時代早期の土器破片1点23g、9号ピットで縄文時代中期初頭の土器破片1点17gが出土した程度で、ピットの時期を決定するのは困難である。

後述する掘立柱建物跡では、1号掘立柱建物跡が弥生時代の遺構と推測されるが、ピットの形状と埋土が類似しており、また同時期では堅穴住居跡2軒が検出され、一定以上の生活痕跡が残されていることから、これらのピットや1号掘立柱建物跡も弥生時代の所産である可能性が高いと思われる。

第3節 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡（HO-1 第18図、写真図版23）

調査区中央からやや東寄りで検出された。10基の柱穴から構成されるが、2棟の掘立柱建物跡が同一地点で交替されていると思われる。20号ピット（PT20）と22号ピット（PT22）の重複関係から、棟持柱をもつ1間四方の小庭の掘立柱建物が先行し、1間分だけ南北に長い大型の建物が新しいと判断される。

遺物は20号ピットで黒曜石剥片1点0.5g、27号ピットで縄文時代中期初頭の土器破片3点17g、32号ピットで弥生時代の土器破片1点9gが出土しており、弥生時代の遺構と考えられる。

2号掘立柱建物跡（HO-2 第18図）

調査区北東寄りで検出されたが、柱穴の配置がやや不規則であることから、確実に建物跡か判断できなかった。遺物は出土せず時期は不明であるが、周辺のピットとともに弥生時代の所産である可能性が高いと思われる。

第2表 土坑觀察表

番号(DK)	位置	埋土	出土遺物・調査所見等
001	調査区北西角・土坑群A	90 90 30	10YR4/4のしまった細粒土 しまった10YR3/2細粒土に「大漁が多事」がある。 10YR4/6細粒土に「10YR4/6細粒土が1%、炭1%」が記入する。
002	調査区中央・土坑群C	150 140 30	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/6細粒土が1%、炭1%」が記入する。
003	調査区西南隅	115 103 30	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/6細粒土が1%、炭1%」が記入する。
004	欠番		
005	調査区西南角・土坑群B	115 100 22	しまった10YR3/3細粒土 10YR3/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%、炭3%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%、炭5%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/4細粒土が20%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/4細粒土が20%」記入。
006	調査区西南角・土坑群B	125 115 22	10YR3/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%、炭3%」記入。
007	調査区中央・土坑群A	150 120 21	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%、炭5%」記入。 10YR3/2細粒土に「10YR3/3細粒土が10%」記入。 10YR3/2細粒土に「10YR3/3細粒土が10%」記入。
008	調査区北西角・土坑群A	120 110 26	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
009	調査区北西角・土坑群A	105 105 32	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
010	調査区北西角・土坑群A	120 110 28	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
011	欠番		
012	調査区中央・土坑群C	120 115 15	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土
013	調査区中央・土坑群C	125 95 10	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土
014	調査区中央・土坑群C	145 120 22	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
015	調査区中央・土坑群C	180 120 19	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
016	1号住居跡 1m	90 90 18	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 10YR3/2細粒土に「10YR3/3細粒土が20%」記入。
017	1号住居跡 1m	95 95 18	ややしまった10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土
018	調査区北西角・土坑群A	100 90 25	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR2/3細粒土が30%」記入。 10YR3/3細粒土に「10YR2/3細粒土が30%」記入。
019	調査区東側・土坑群D	80 80 20	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土
020	2号住居跡 5m	70 70 20	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土
021	2号住居跡 5m	130 110 32	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 10YR2/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
022	調査区東側・土坑群D	100 105 15	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。 10YR2/2細粒土に「10YR3/4細粒土が20%」記入。
023	調査区中央・土坑群C	90 90 36	ややしまった10YR3/3細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土 10YR3/3細粒土
024	3号住居跡 2m	122 92 36	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が2%」記入。 10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が2%」記入。
025	3号住居跡 2m	100 95 35	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が1%」が記入。 10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が1%」が記入。
026	3号住居跡 3m	140 126 32	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が1%」が記入。 10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が1%」が記入。
027	3号住居跡 2m	158 150 37	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/6細粒土が1%」が記入。 10YR3/3細粒土に「10YR4/6細粒土が1%」が記入。
028	3号住居跡	160 30(5)55 25	[石屋型]ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR4/6細粒土が1%」が記入。 10YR2/2細粒土に「10YR4/6細粒土が1%」が記入。
029	欠番		
030	調査区北西角・土坑群A	68 65 25	ややしまった10YR3/3細粒土が1%。 燃土粒子が1%が記入。
031	欠番		
032	調査区西南隅	76 76 22	ややしまった10YR4/4細粒土 ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR4/4細粒土が1%」記入。
033	調査区西南隅	110 110 33	ややしまった10YR3/3細粒土に「10YR5/6細粒土が2%」記入。
034	調査区東側・土坑群D	65 90 40	ややしまった10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が2%」記入。
035	欠番		
036	3号住居跡	120 70 70	10YR2/2細粒土に「10YR4/4細粒土が5%」記入。

番号(DK)	位置	埋土質 (直径×高さ)×延長(cm)	埋土質	出土遺物・調査所見等
037	調査区北西角・土坑跡A	100 80 25	10YR2/3細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	30号工場ど2号土坑に切られる。調査時代中期五個ケル式土器破片6点。
038	1号柱位内	110 105 29	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	3号住居跡に切られる。調査時代の兔足土器破片2点、萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片2点など。
039	1号柱位内	108 80 16	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土3%、出し地盤土が2%混じる。	住居跡の外側が黄泥こじらかす状態を切ついると思われる。出土遺物なし。
040	1号柱位植物束廻り	67 60 13	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が2%混じる。	39号工場に切られる。調査時代の兔足土器破片2点、鹿骨2点。
041	1号柱位内	65	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が混じる。	1号柱に切られる。調査時代の兔足土器破片1点、萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片2点、黒曜石片3点。
042	調査区北西角・土坑跡A	125	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/4細粒土3%、燒土粒子5%、炭化物粒子2%が混じる。	生糞時代の兔足土器破片1点、萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片2点。
043	調査区北西角・土坑跡A	105 40	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR5/8細粒土が1%混じる。	1号土坑に切られる。62号土坑に切れる。発生時代の土器破片1点、黒曜石片1点。
044	調査区北西角・土坑跡A	140 45	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	50号工場に切られる。発生時代の細口瓶火土器破片はからん、黒曜石片4点。
045	調査区北西角・土坑跡A	120 120 27	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	調査時代の土器破片を切る。黒曜石片4点。
046	調査区北西角・土坑跡A	130	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/6細粒土が5%混じる。	9号柱に切れる。1号・43号土坑に切られる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片6点。
047	調査区北西角・土坑跡A	150 50	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	生糞時代の兔足土器破片4点、萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片2点。
048	調査区中央・土坑跡C	70 15	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	2号柱に切れる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片1点。
049	久番	133 45	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/6細粒土が10%混じる。	3号住居に切る。
050	調査区北西角・土坑跡A	130 110 21	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が5%混じる。	44号・1号柱に切れる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片1点。
051	調査区北西角・土坑跡A	80 90 30	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR6/4細粒土が3%混じる。	45号柱に切れる。1号・43号土坑に切られる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片1点。
052	調査区北西角・土坑跡A	135 31	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/6細粒土が3%混じる。	37号柱に切れる。1号・43号土坑に切られる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片1点。
053	調査区北西角・土坑跡A	210 185 42	ややしまった10YR3/2細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	出土遺物なし。
054	調査区南東角	220 130 35	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が20%混じる。	5号柱に切れる。1号・25号土坑に切られる。出土遺物なし。
055	久番	90 10 20	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が10%混じる。	57号柱に切れる。1号・25号土坑に切られる。出土遺物なし。
056	調査区中央・土坑跡C	80	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR6/4細粒土が10%混じる。	5号柱に切れる。1号・25号土坑に切られる。出土遺物なし。
057	調査区中央・土坑跡C	110 10 10	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR5/6細粒土が10%混じる。	5号柱に切れる。1号・25号土坑に切られる。出土遺物なし。
058	調査区中央・土坑跡C	185 175 20	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土5%、燒土粒子1%、炭化物粒子2%が混じる。	1号柱に切れる。1号・25号土坑に切れる。出土遺物なし。
059	調査区中央・土坑跡E	160 180 90	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	1号柱に切れる。1号・25号土坑に切れる。出土遺物なし。
060	調査区南東角・土坑跡F	35	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が20%混じる。	1号柱に切れる。1号・25号土坑に切れる。出土遺物なし。
061	調査区北西角・土坑跡A	130 95 13	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	63号・64号土坑に切れる。出土遺物なし。
062	調査区北西角・土坑跡A	130 15	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が20%混じる。	30号・62号土坑に切れる。46号柱に切れる。発生時代の土器破片3点。
063	調査区北西角・土坑跡A	120	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	30号・62号土坑に切れる。46号柱に切れる。萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片3点。
064	調査区北西角・土坑跡A	10	ややしまった10YR2/3細粒土に10YR4/3細粒土が30%混じる。	44号・50号・67号土坑に切れる。発生時代の土器破片2点、萬文鉢形住居跡五個ケル式土器破片1点。
065	調査区北西角・土坑跡A	10	ややしまった10YR3/4細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	9号・30号・50号・67号土坑に切れる。出土遺物なし。
066	調査区北西角・土坑跡A	10	ややしまった10YR3/3細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	44号・53号土坑に切れる。65号柱に切れる。出土遺物なし。
067	調査区北西角・土坑跡A	28	ややしまった10YR2/2細粒土に10YR4/3細粒土が10%混じる。	5号柱に切れる。1号・25号土坑に切れる。出土遺物なし。
068	調査区中央・土坑跡C	85 55	ややしまった10YR3/1細粒土に10YR4/3細粒土が1%混じる。	5号柱に切れる。1号・25号土坑に切れる。出土遺物なし。

第3章 ピット觀察表

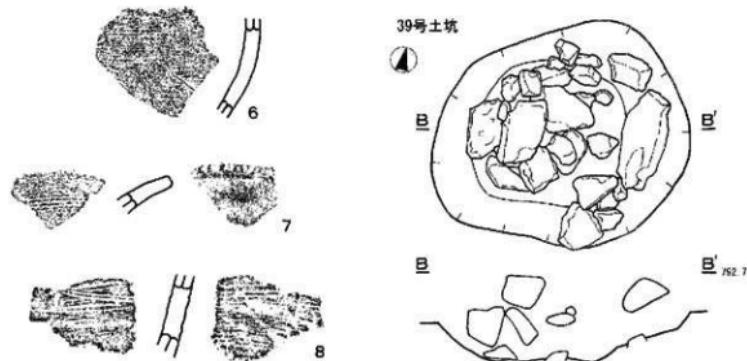
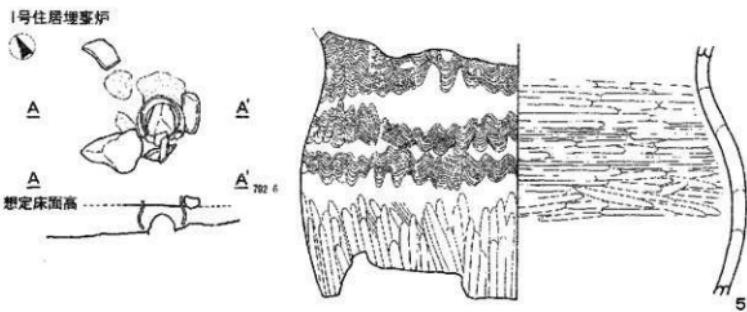
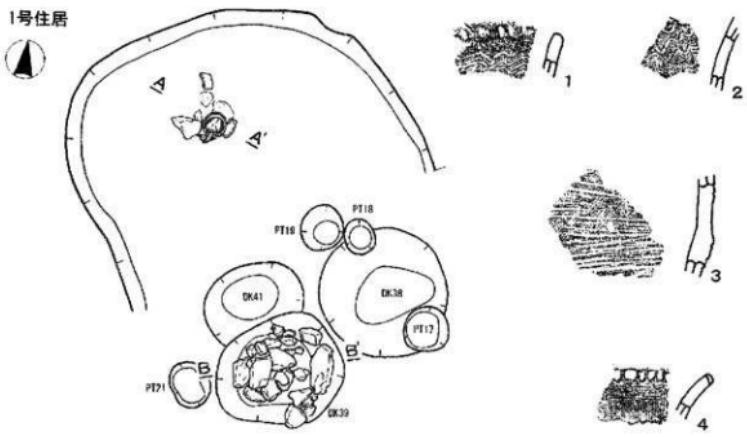
番号(PT)	位置	地盤物×強制)×深さ cm		土壤質	出土遺物調査所見等
		深さ(cm)	強制(cm)		
001	1号住居西2m	47	20	まったく10YR5/3(3強約土に10YR5/6(細粒土が10%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土に10YR5/6(細粒土が1%混じる。
002	1号住居西2m	50	10	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/4(細粒土が5%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土
003	1号住居西2m	25	12	まったく10YR2/2(細粒土に炭化物粒子が1%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土
004	1号住居西2m	24	25	まったく10YR2/2(細粒土に10YR5/6(細粒土が混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土
005	1号獨立建物北東2m	36	10	まったく10YR2/3(3強約土に10YR4/6(細粒土が7%混じる。	柱頭時(の土壤層片2点
006	1号独立建物北東2m	43	14	まったく10YR2/2(細粒土が7%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 檜文時代早形の土器破片1点
007	1号住居南2m	45	20	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が3%、炭化物粒子が5%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
008	1号住居南2m	45	14	まったく10YR2/2(細粒土2つある。炭化物粒子が5%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
009	1号住居南2m	50	50	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/4(細粒土が30%、炭化物粒子が10%、灰土)、骨灰)、砂利)子が1%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
010	1号獨立建物北2m	50	11	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
011	1号獨立建物北東2m	45	15	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
012	1号獨立建物北東2m	33	33	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が7%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
013	1号獨立建物北東2m	27	27	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
014	1号獨立建物	23	23	まったく10YR2/2(細粒土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	柱頭 10YR2/2(細粒土 灰土
015	1号住居南端	46	7	まったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	柱頭時(の土器破片1点
016	1号住居南端	52	51	まったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	柱頭時(の土器破片1点
017	1号住居内	37	8	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が1%、燒土)骨灰)が5%混じる。	38号土坑を切る。
018	1号住居内	14	29	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%、炭化物粒子が1%混じる。	38号土坑を切る。
019	1号住居内	32	36	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%、炭化物粒子が1%混じる。	38号土坑を切る。
020	1号獨立建物	53	33	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%、燒土)骨灰)が1%混じる。	22号ビットを切る。黒蝶石剥片1点
021	1号住居内	36	28	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が1%、燒土)骨灰)が1%混じる。	20号ビットに切られる。
022	1号獨立建物	50	48	まったく10YR2/2(強約土に10YR5/6(細粒土が1%、炭化物粒子が1%混じる。	20号ビットに切られる。
023	1号獨立建物東2m	42	35	ややややまったく10YR2/3(強約土に10YR5/6(細粒土が5%混じる。	68号土坑を切る。赤生時代の土器破片1点
024	1号住居西2m	43	15	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR5/6(細粒土が2%混じる。	57号、58号土坑を切る。檜文時代中期の土器破片4点
025	2号住居西	45	46	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	58号、59号土坑を切る。檜文時代中期の土器破片3点
026	1号獨立建物内	26	24	ややややまったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	69号土坑を切る。
027	1号獨立建物	46	46	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	69号土坑を切る。
028	1号獨立建物	40	41	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	70号土坑を切る。
029	1号獨立建物	26	35	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が5%混じる。	71号土坑を切る。
030	1号獨立建物	34	30	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	72号土坑を切る。
031	1号獨立建物	30	35	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	73号土坑を切る。
032	1号獨立建物	33	33	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が3%混じる。	74号土坑を切る。
033	2号住居内	30	33	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	75号土坑を切る。
034	2号住居東3m	26	25	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	76号土坑を切る。
035	2号住居東3m	30	30	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が2%混じる。	77号土坑を切る。
036	1号住居東2m	25	20	ややややまったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	78号土坑を切る。
037	1号住居東1m	35	35	まったく10YR2/2(強約土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	79号土坑を切る。
038	2号住居内	38	6	まったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	80号土坑を切る。
039	2号住居内	32	6	まったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	81号土坑を切る。
040	2号住居内	43	9	まったく10YR2/3(強約土に10YR4/6(細粒土が10%混じる。	82号土坑を切る。

番号(Pt)	位置	径(馬蹄形×鉛輪)×深さ(cm)	埋土質	出土遺物・発見所見等
041	2号住居内	45 45 13	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%混じる。	
042	2号住居内	40 40 12	しまった10YR4/4細粒土が5%混じる。	
043	2号住居内	36 36 7	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4が5%混じる。	
044	2号住居内	33 33 8	しまった10YR2/3細粒土に10YR4/4が10%混じる。	
045	2号獨立建物	34 34 14	柱頭 しまった10YR4/4細粒土に10YR3/3細粒土が10%、焼土粒子が1%、灰化物 粒子が1%混じる。	
046	2号獨立建物南東	34 34 20	柱頭 しまった10YR4/4細粒土が10%、焼土粒子が1%、灰化物 粒子が1%混じる。	
047	2号獨立建物	43 43 8	柱頭 しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	
048	2号獨立建物東	45 45 8	柱頭 しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	
049	2号獨立建物東	50 50 13	柱頭 しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が20%混じる。	
050	2号獨立建物	48 46 9	柱頭 しまった10YR3/3細粒土に10YR4/4細粒土が10%、焼土粒子 が1%混じる。	
051	3号住居		柱頭 しまった10YR4/6細粒土が10%、焼土粒子 が20%混じる。	
052	1号獨立建物	45 45 23	柱頭 しまった10YR3/2細粒土に10YR4/6細粒土が10%混じる。	3号住居穴

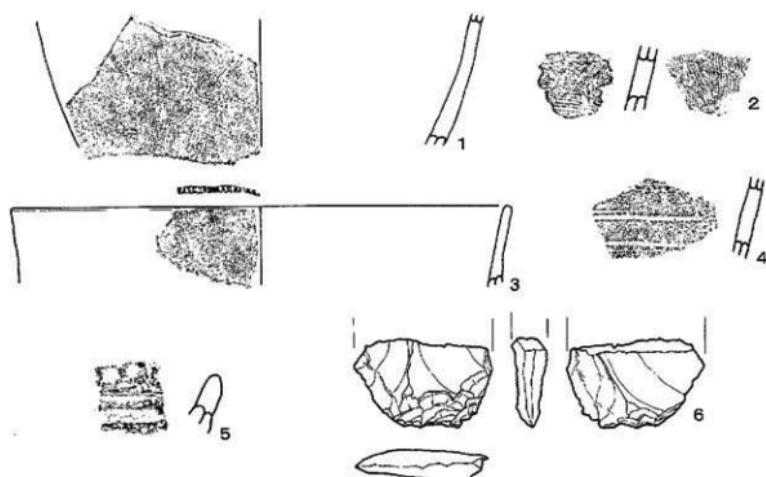
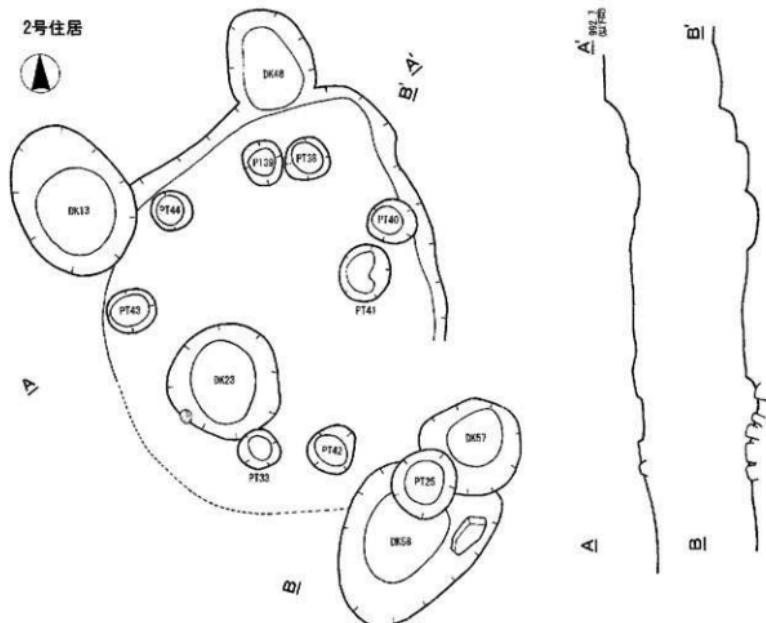
昭和年号	遺構番号	時代	器種	口径 (cm)	底高 (cm)	胎土色調	胎土性質	残存度	重量 (g)	特徴、出土質、輪廻、出土位置	
昭和4	62 号土坑	縄文時代	深鉢		器外面5Y13/2(暗赤褐色) 器内面5Y16/4(灰)	89	中輪切削か輪廻。石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
14回5	65 号土坑	弥生時代		7.5/PB6/4(にぶい黄褐色)	小破片	13	外面細密な繩文、内面横溝状のやや硬い胎土。				
14回6	65 号土坑	弥生時代		7.5/PB7/4(にぶい黄褐色)	小破片	15	外面細密な繩文、内面横溝状のやや硬い胎土。				
14回7	66 号土坑	弥生時代	壺	10/YR6/4(にぶい黄褐色)	小破片	13	外面細密な繩文、内面横溝状のやや硬い胎土。				
14回8	1 号土坑	縄文時代		1(c)灰(青緑)	小破片	18	輪削削痕下に本の輪削削痕文。				
14回9	1 号土坑	縄文時代		1(c)灰(青緑)	小破片	23	中輪切削、五輪ヶ台形。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
14回10	8 号土坑	弥生時代		1(c)灰(青緑)	小破片	12	外面細密な繩文、内面ミカキ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
15回1	8 号土坑	弥生時代		1(c)灰(青緑)	小破片	8	外面細密な繩文、口部削折り落しに傷があり。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
15回2	44 号土坑	弥生時代		1(c)灰(青緑)	小破片	26	外面細密な繩文、内面ミカキ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
15回3	67 号土坑	弥生時代		1(c)灰(青緑)	小破片	20	外面細密な繩文、内面横溝状のナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。				
15回4	6 号土坑	弥生時代		7.5/PB4/2(灰褐色)	小破片	9	輪削削痕文ど輪削文。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
16回1	12 号土坑	縄文時代		1(c)灰(青緑)	小破片	3	前輪削文と輪削文と輪削文。				
16回2	12 号土坑	縄文時代		器外面5Y16/4(にぶい黄褐色) 器内面7.5/YH5/3(にぶい黄褐色)	小破片	25	中輪切削、五輪ヶ台形。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
16回3	13 号土坑	弥生時代		1(c)灰(青緑)	小破片	6	外面細密な繩文、口部削折り落しに傷があり。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
16回4	13 号土坑	弥生時代	広口 壺	(20.0)	10/YR6/4(にぶい黄褐色)	小破片	53	外輪削痕を廻す。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。			
16回5	38 号土坑	弥生時代		5YR6/6(青)	小破片	7	外輪削痕波状および輪削文。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
16回6	60 号土坑	弥生時代		7.5/PB6/4(にぶい黄褐色)	小破片	15	外面細密な繩文、内面ミカキ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回1	14 号土坑	弥生時代		7.5/PB6/4(にぶい黄褐色)	小破片	21	外輪削痕波状文。内面ミカキ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回2	15 号土坑	弥生時代		7.2	器外面7.5/YH6/4(にぶい黄褐色) 器内面5Y16/4(にぶい赤褐色)	小破片	20	外面細密な繩文、内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。			
19回3	23 号土坑	弥生時代		7.5/YR6/6(青)	小破片	73	外輪削痕波状文、内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回4	23 号土坑	弥生時代		7.5/YR3/4(青)	小破片	6	外輪削痕波状文、内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。				
19回5	23 号土坑	弥生時代		7.5/YR3/4(青)	小破片	3	中輪切削、五輪ヶ台形。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回6	35 号土坑	縄文時代		1(c)灰(青緑)	小破片	16	中輪切削、五輪ヶ台形。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回7	36 号土坑	弥生時代		10/YR6/4(にぶい黄褐色)	小破片	4	口部削痕が有る。外面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるやや粗粒の胎土。				
19回8	50 号土坑	弥生時代		7.5/YR5/6(青)	小破片	30	割込み安堵、多面文。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回9	54 号土坑	縄文時代		(黒褐色)	小破片	24	小孔の裏側がついた口部削痕。長石、石英、少量の鱗解離が見れる。				
19回10	68 号土坑	弥生時代		5YR6/6(青)	小破片	13	外輪削痕波状文。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回12	透明外	弥生時代		(16.0)		29	輪削削痕が有る。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				
19回14	透明外	弥生時代		12.4		15	外輪削痕波状文。内面ナデ。長石、石英、雲母粒子が混じるためやや硬い胎土。				

第5类 石器観察表

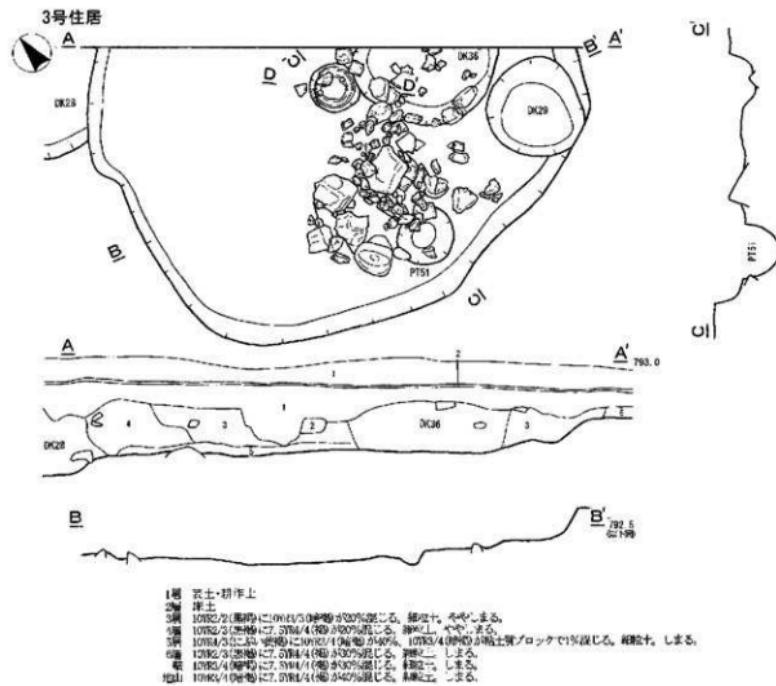
圖版番号	遺構番号	器種	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	石質	重量 (g)	特徴
7図6	2号住居	打製石斧				粘板岩	25	端々周縁部調整。刃部破片か。
9図10	3号住居	石鎌	2.2	1.5	0.5	黒曜石	1.3	
9図11	3号住居	石鎌		2.0		黒曜石	0.7	先端部、茎部片端欠損。
9図12	3号住居	石皿	17.5	21.0	6.8	安山岩	2800	未成品か
9図13	3号住居	凹石	13.8	7.1	3.7	安山岩	381	研磨痕なし
9図14	3号住居	凹石	9.5	7.8	5.0	安山岩	372	研磨痕なし
10図1	3号住居	石皿	31.3	27.0	7.4	安山岩	6700	擦り面内には敲打による凹凸あり。擦り面再生か。背面や脇溝。
10図2	3号住居	磨石	10.8	5.2	5.1	安山岩	555	平坦面と削面に研磨痕
11図1	26号土坑	打製石斧	7.0	4.5	1.4	頁岩	52	折損品
11図3	27号土坑	點石	13.5	8	3.4	安山岩	579	平坦な二面に敲打痕、研磨痕あり
13図5	61号土坑	ヘラ状石器	6.3	2.0	1.0	珪質頁岩	19	全周にわたり縦刃加工あり。背面には擦面が残る。
19図11	68号土坑	磨石	6.6	10.0	5.1	安山岩	512	風化しているが磨石と思われる。
19図13	遺構外	打製石斧	10.0	6.4	2.7	細粒砂岩	130	背面から基部は擦面が大きく残る。腹面は削理面あり。
19図15	遺構外	石核	5.0	6.3	2.6	黒曜石	52	乱雑な剥離の石核
19図16	遺構外	ハンマー	9.8	3.1	2.2	頁岩	100	石器製作時のハンマーか。全体に崩落している。先端部に小さな剥離と敲打痕あり。



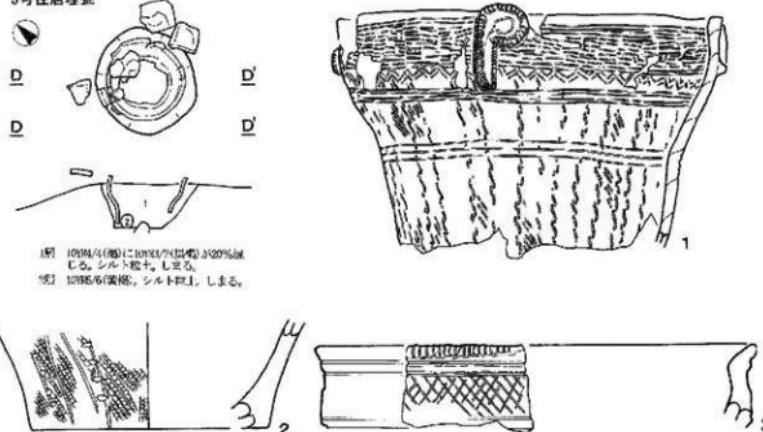
第6図 1号住居 (1/40) 1号住居埋塙炉、39号土坑 (1/20) 出土遺物 (1/2)



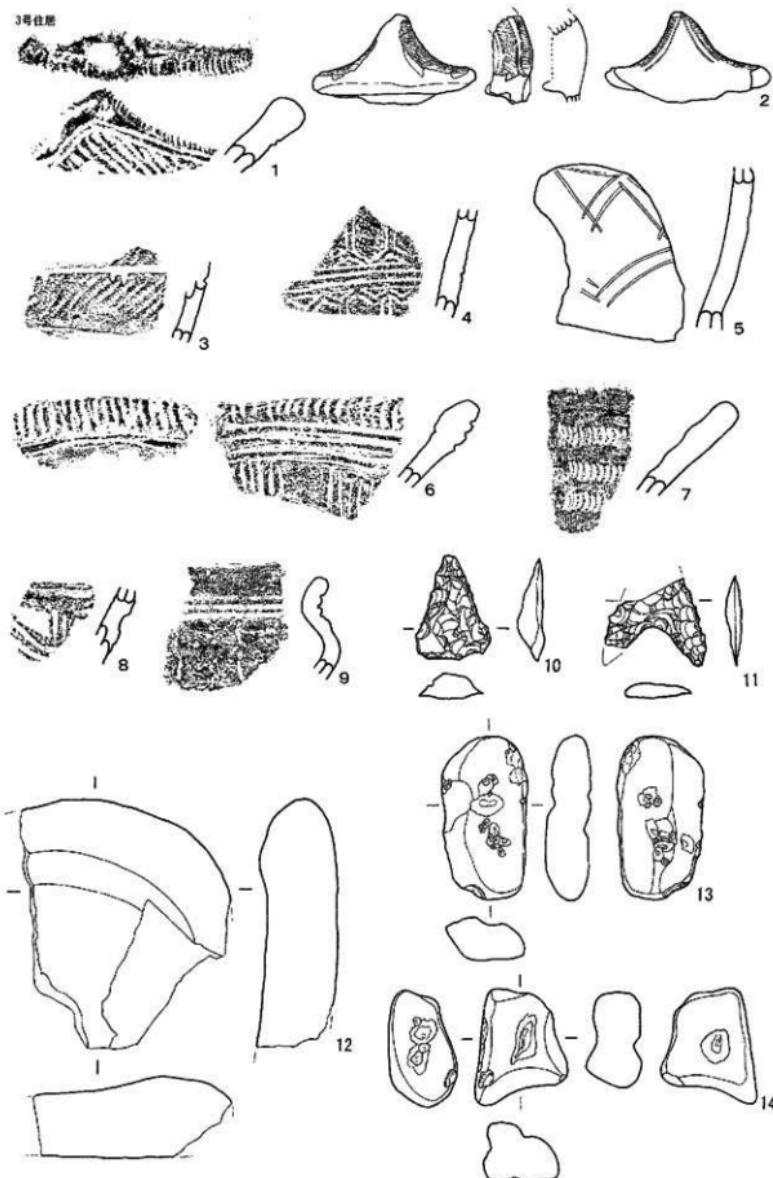
第7図 2号住居 (1/40) 出土遺物 (1/2)



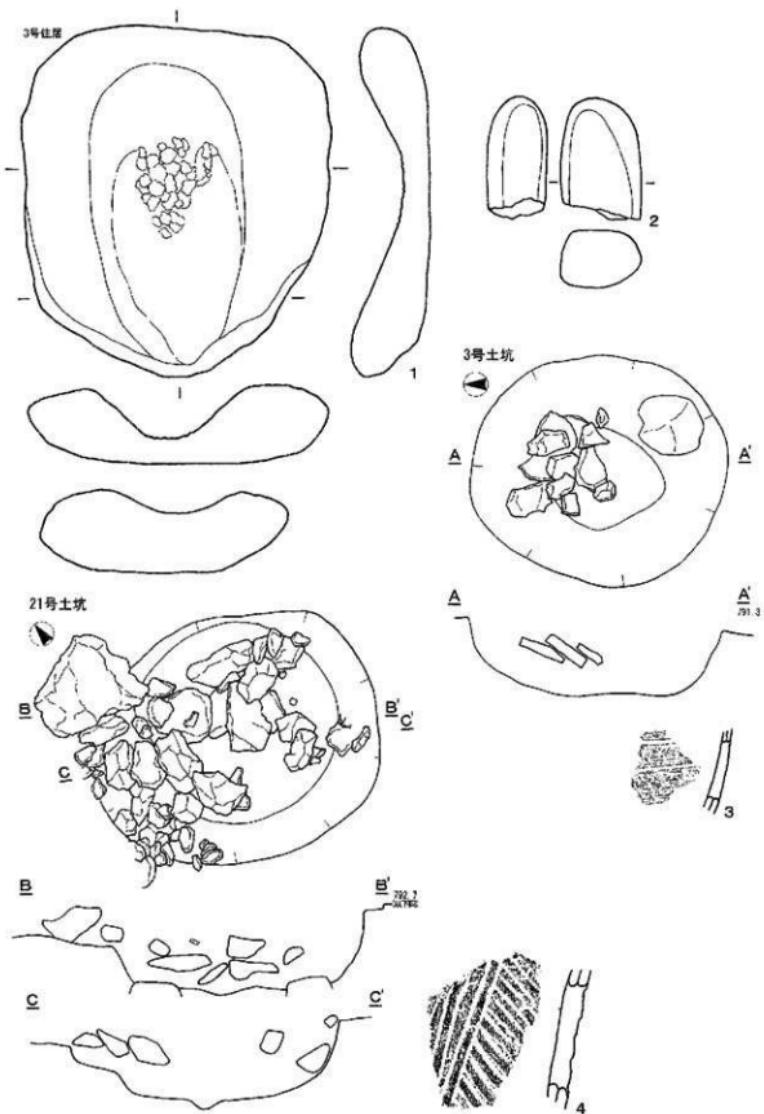
3号住居埋壙



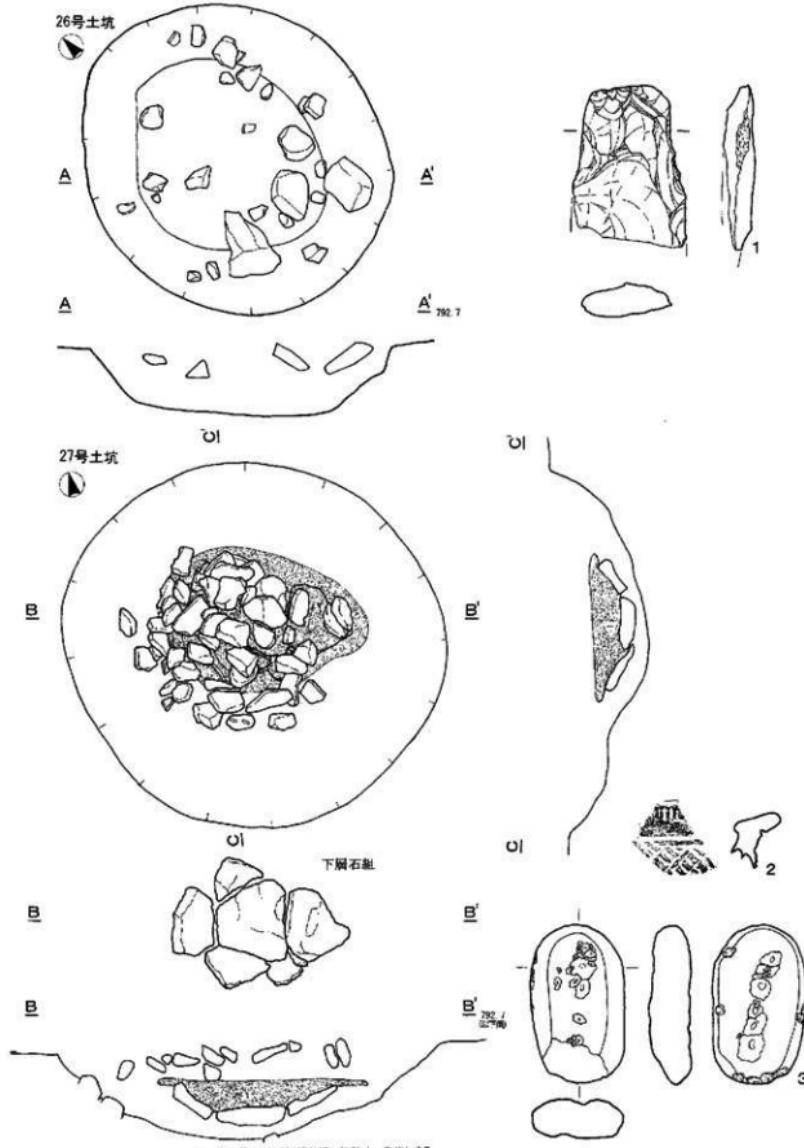
第8図 3号住居 (1/40) 3号住居埋壙 (1/20) 出土遺物 (1/2、1は1/4)



第9図 出土遺物 (1/2、10・11は1/1、2・12~14は1/4)

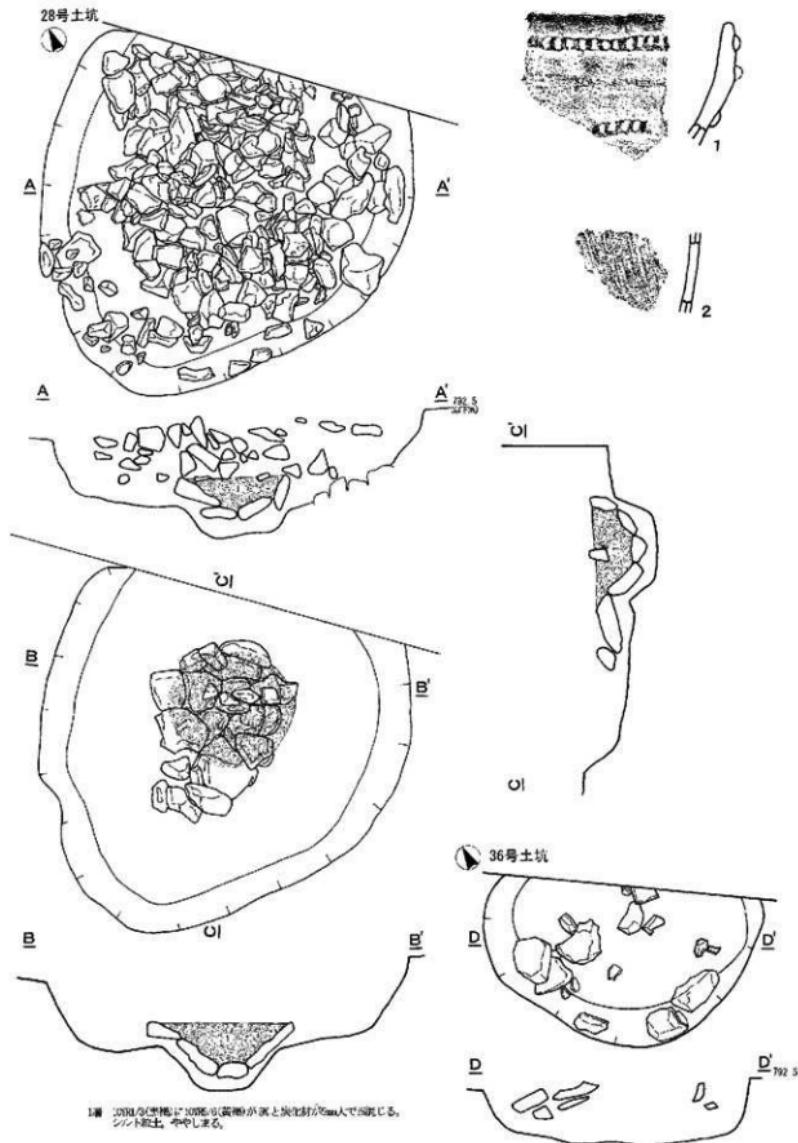


第10図 3号、21号土坑 (1/20) 出土遺物 (1/2、1・2は1/4)



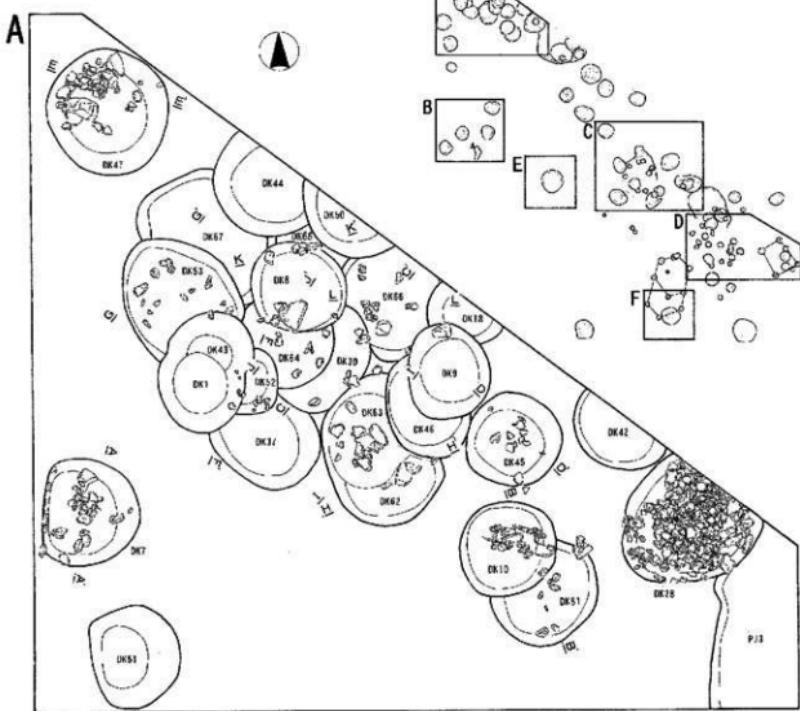
1号 10YR2/1(墨)に炭化物が10%以下混じる。漆取上、ややしめる。

第 11 図 26 号、27 号土坑 (1/20) 出土遺物 (1/2、3 は 1/4)

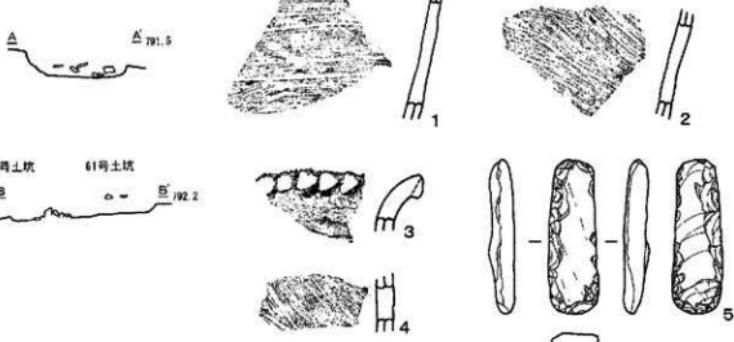


第12図 28号、36号土坑(1/20)出土遺物(1/2)

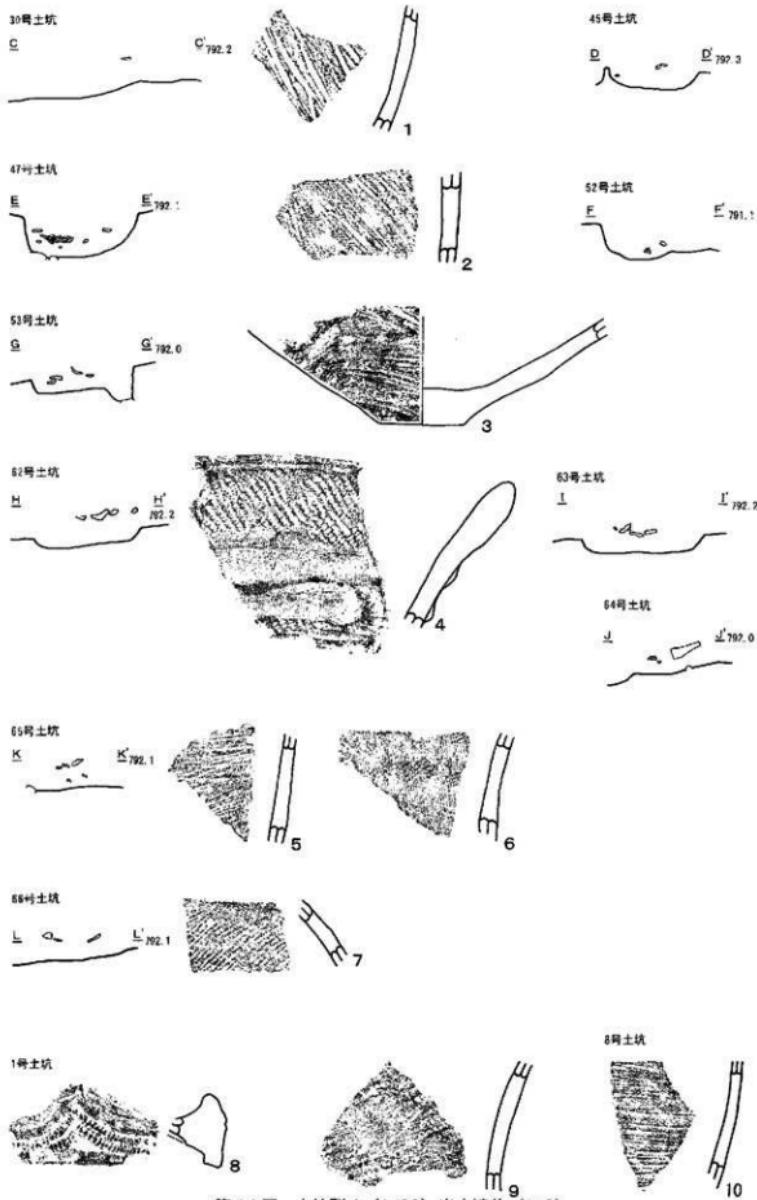
土坑群、ピット群



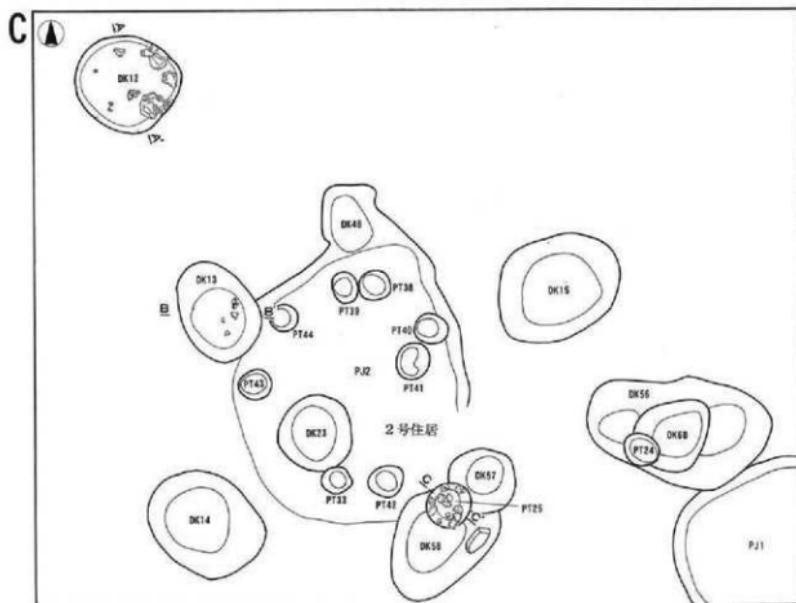
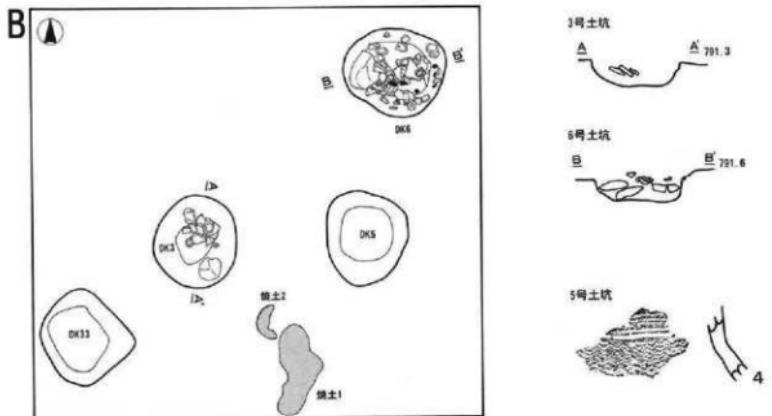
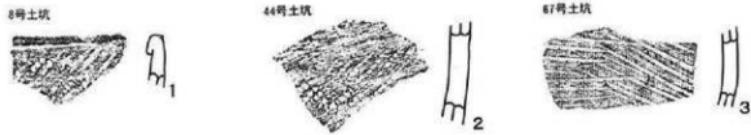
7号土坑



第13図 土坑群A(1/60) 出土遺物(1/2)



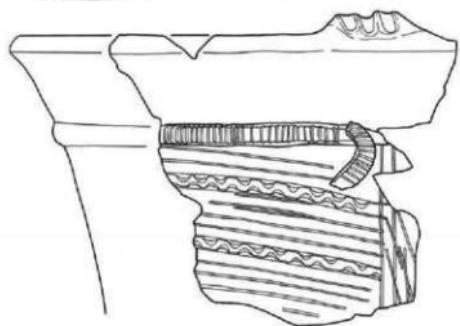
第14図 土坑群A(1/60)出土遺物(1/2)



第15図 土坑群B、C (1/60) 出土遺物 (1/2)

12号土坑

0 792.5

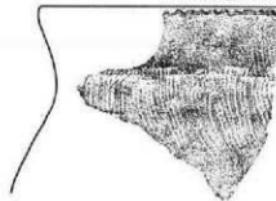


13号土坑

0 792.5

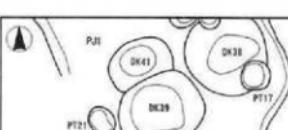


14号土坑



25号ピット

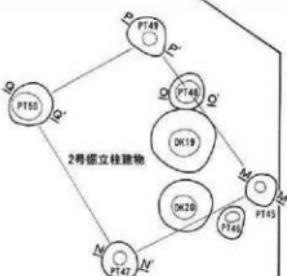
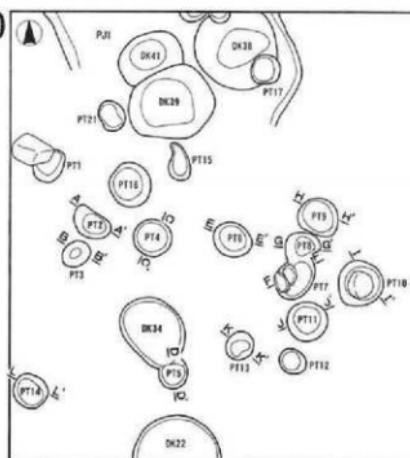
0 792.5



38号土坑

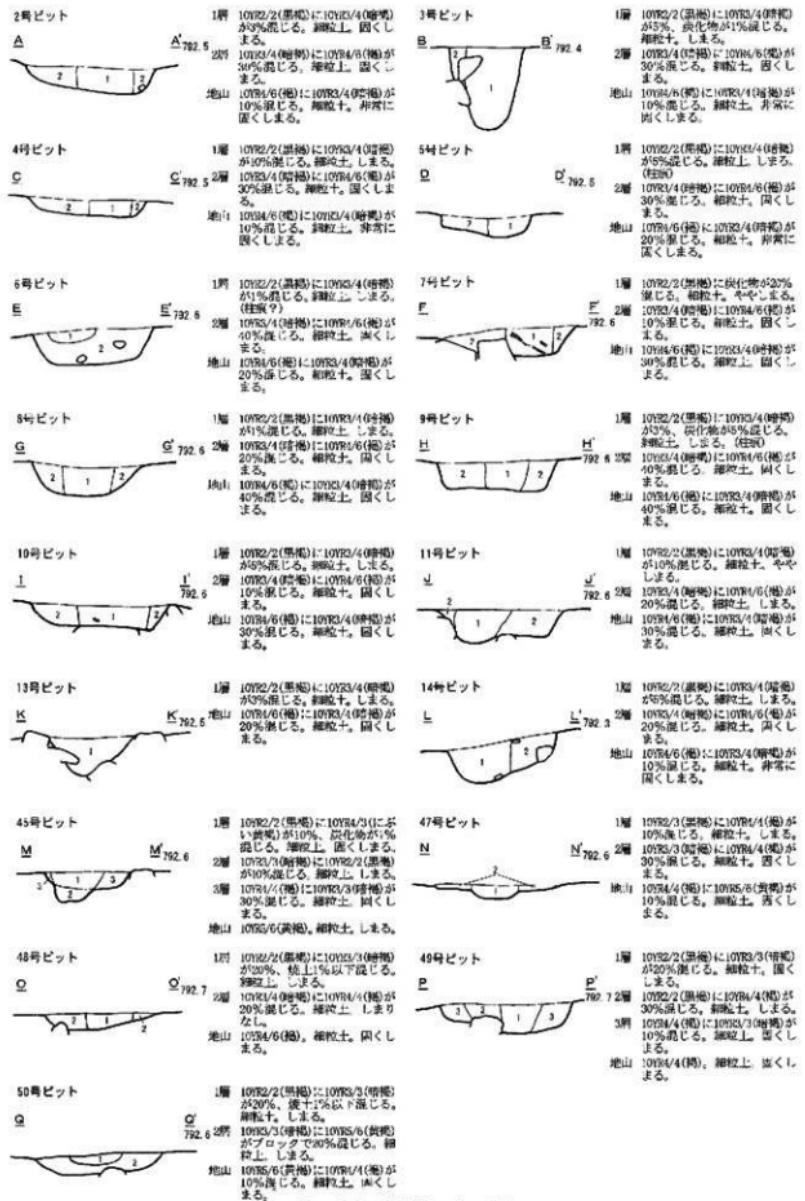


D

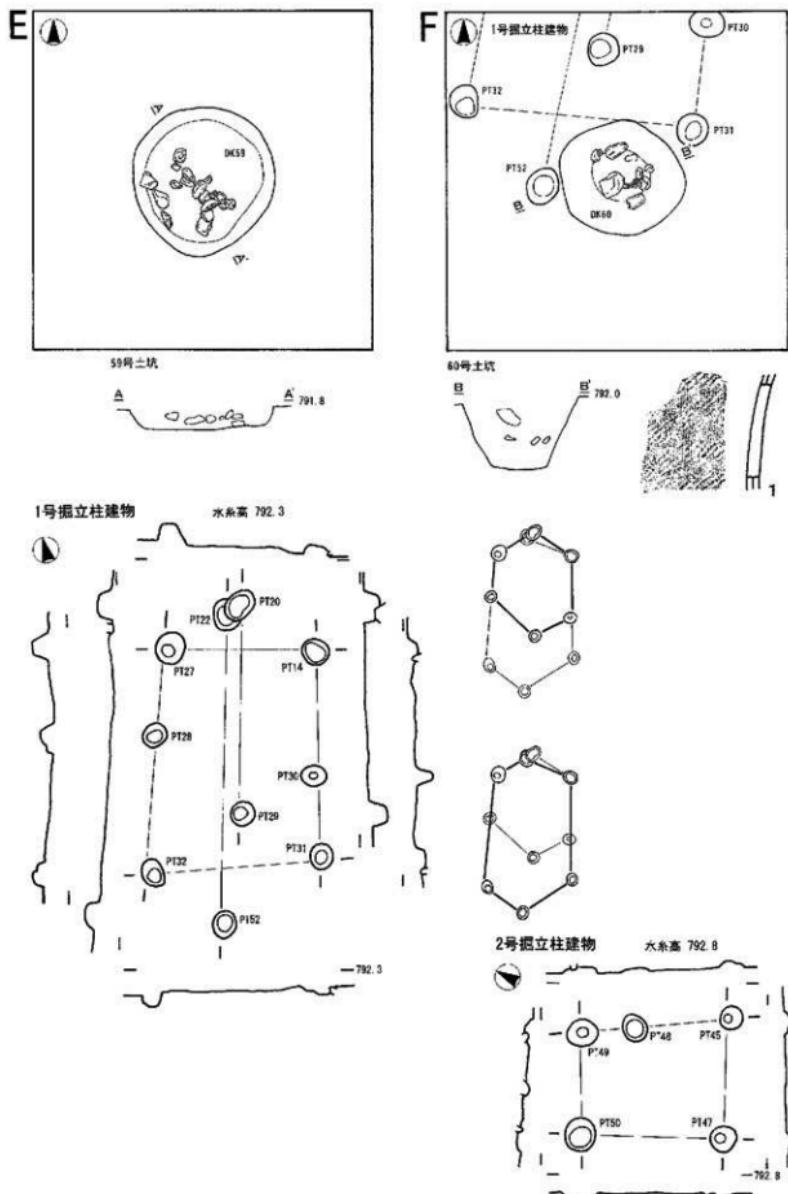


2号埋立柱建物

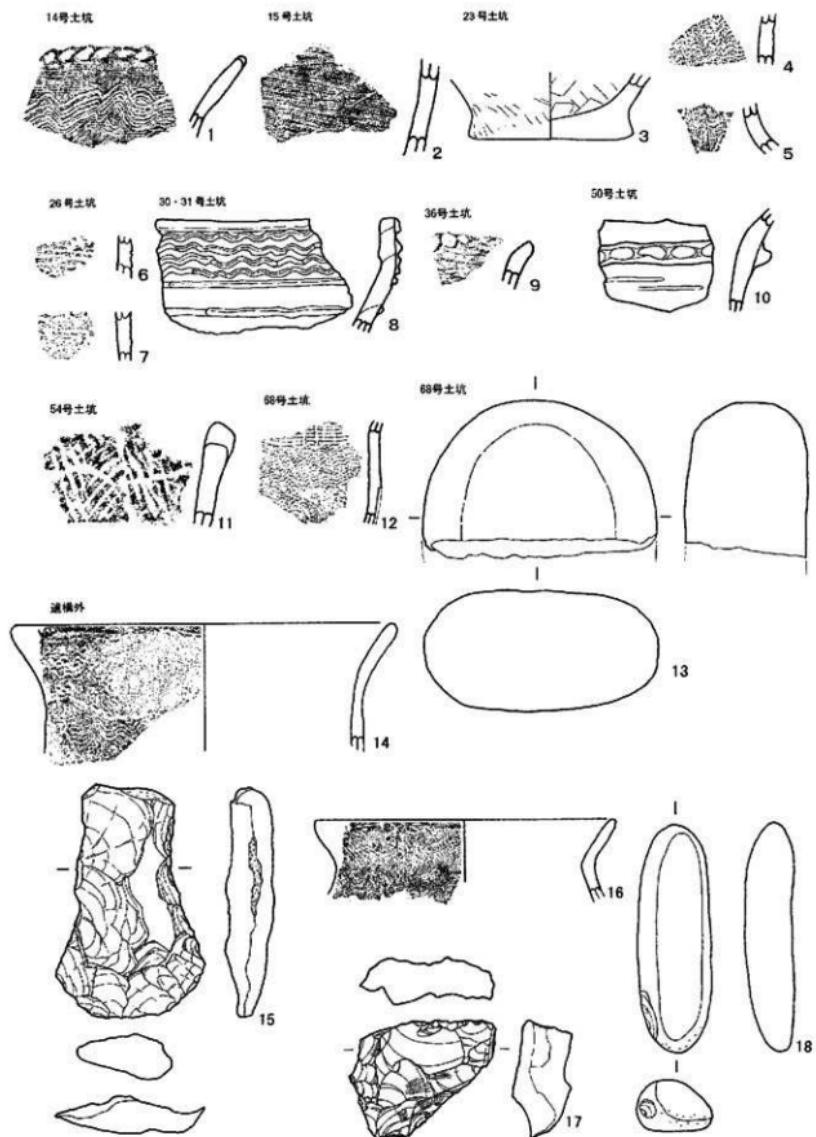
第16図 土坑群C、土坑群D(1/60)出土遺物(1/2)



第17図 土坑群D (1/20)



第18図 土坑群E、F(1/60)出土遺物(1/2) 堀立柱建物(1/80)



第19図 出土遺物 (1/2)



調査地点近景



調査地点近景



1号住居跡



1号住居跡炉跡検出状況



1号住居炉跡半截状况



1号住居炉跡半截状况



1号住居跡完掘状況



1号住居跡炉体土器



1号住居跡出土土器



2号住居跡完掘状況



2号住居埋土セクション



2号住居出土土器



3号住居跡完掘状況



3号住居跡完掘状況



3号住居埋土セクション



3号住居遺物出土状況



3号住居炉跡



3号住居炉跡半截状况



3号住居炉体土器



3号住居出土土器



3号土坑



21号土坑



26号土坑



27号土坑上層疊棲出狀況



27号土坑下层石组检出状况



28号土坑上层砾检出状况



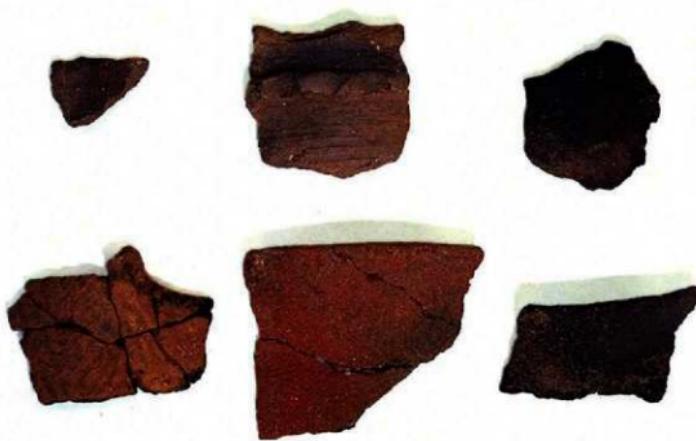
28号土坑下層石組検出状況



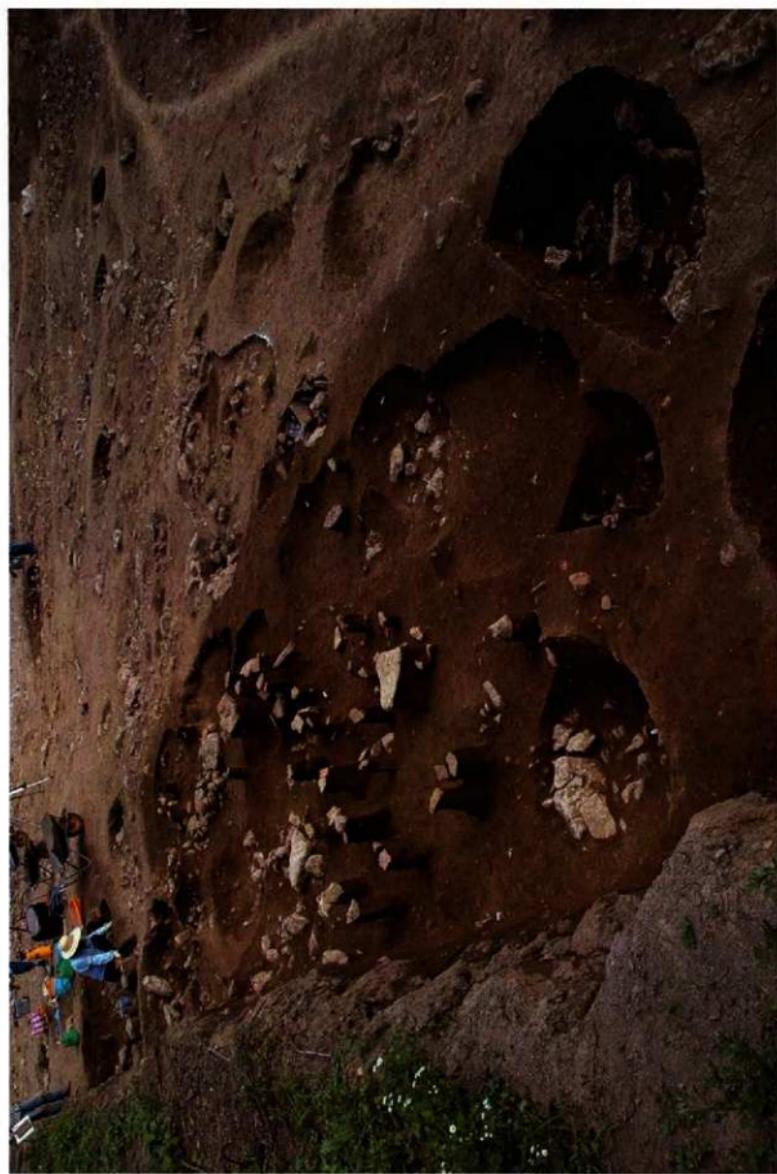
3号・21号・27号・28号・7号・10号土坑出土土器



36号土坑



36号・50号・54号・68号土坑・遺構外出土土器



土坑群A（北西から）



7号土坑



10号·61号土坑



30号土坑



45号土坑



47号土坑



52号土坑



53号土坑



62・63号土坑



64号土坑



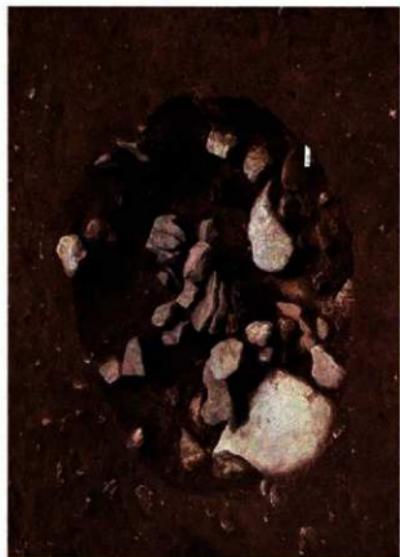
65号土坑



30号・47号・53号・62号・65号土坑



66号土坑



6号土坑



5号土坑



66号・1号・8号・44号・67号・5号土坑出土土器



12号土坑



13号土坑



12号・13号土坑出土土器



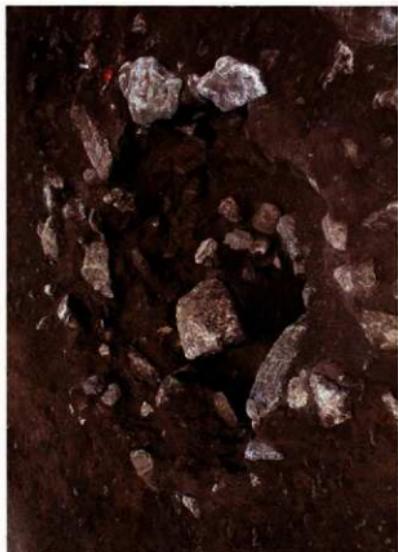
25号ピット



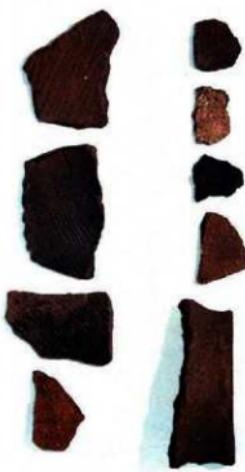
38号土坑



59号土坑



60号土坑



38号・60号・14号・15号・23号・26号土坑出土土器



1号塹立柱建物跡



1号土坑



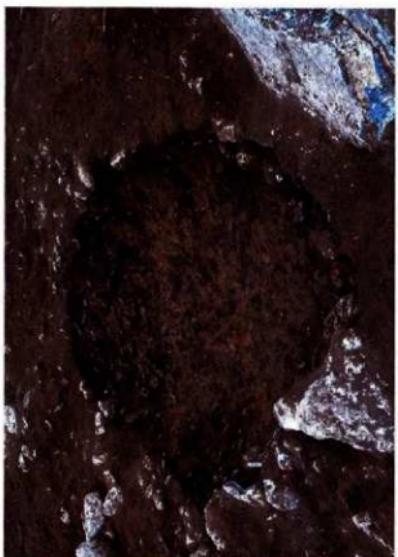
8号土坑



9号土坑



14号土坑



15号土坑



16号土坑



17号土坑



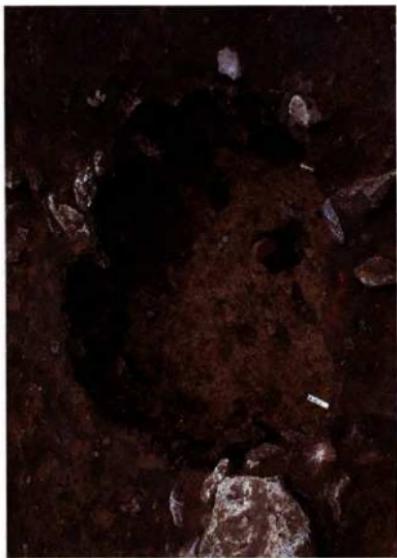
18号土坑



19・20号土坑



22号土坑



23号土坑



24号土坑



25号土坑



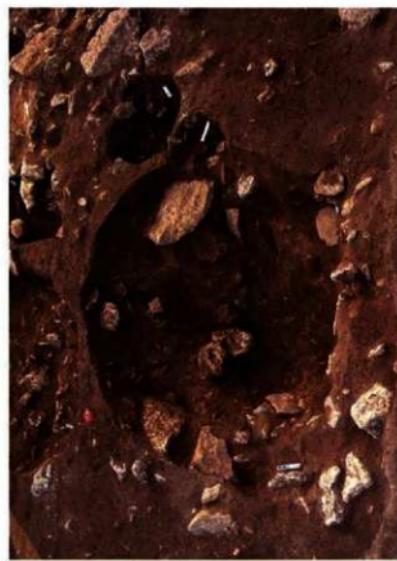
29号土坑



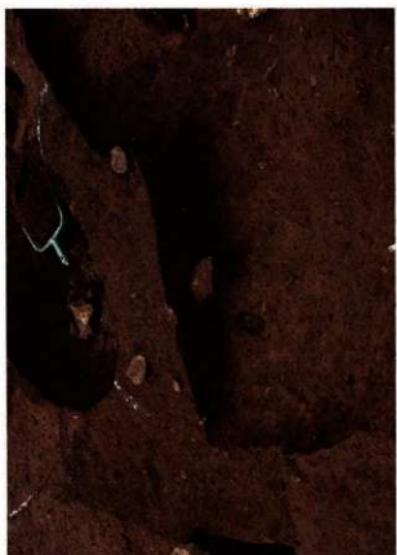
32号土坑



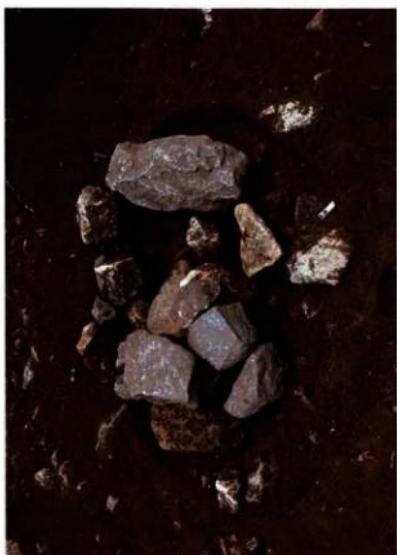
33号土坑



34号土坑



37号土坑



39号土坑



41号土坑



42号土坑



43号土坑



44号土坑



46号土坑



48号土坑



50号土坑



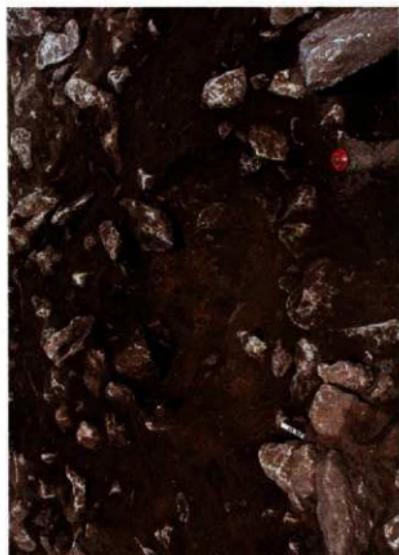
51号土坑



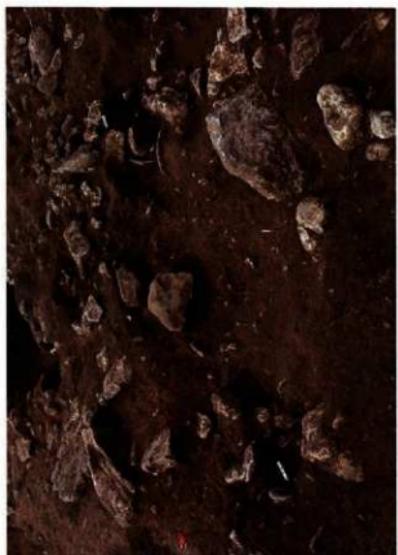
54号土坑



56・68号土坑



57号土坑



58号土坑



61号土坑



67号土坑



遺構外出土の石器

遺構外出土の石器



遺構外出土の石器

遺構外出土の石器

報告書抄録

ふりがな	ひらやまいせき
書名	平山遺跡
副題	農産物処理加工施設に伴う建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第13集
著者	佐野 隆
発行機関	北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	〒408-0188 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1 0551-42-1373
印刷所	須玉印刷 山梨県北杜市須玉町若神子 3931
発行日	平成18年(2006)3月31日

ふりがな	やまなしけんほくとしすたまちょうえぐさあざひらやま
所在地	山梨県北杜市須玉町江草字平山
位置	北緯 35° 48' 49" 東経 138° 28' 30"
調査原因	農産物処理加工施設建設
調査期間	平成17年6月21日～平成17年7月22日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	1669 m ²
時期	縄文時代、弥生時代
主な遺構	縄文時代の竪穴住居1軒、弥生時代中期の竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、縄文時代～弥生時代の土坑・ピット
主な遺物	縄文時代、弥生時代の土器、石器
特記事項	平山遺跡では2度目の調査。山梨県北西部では稀少な弥生時代の墓域と思われる土坑群、掘立柱建物跡。埋葬炉を作った弥生時代の竪穴住居跡。

北杜市埋蔵文化財調査報告 第13集
平山遺跡
農産物処理加工施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年3月25日 印刷
2006年3月31日 発行

発行 北杜市教育委員会
山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1
TEL (0551) 42-1373

印刷 須玉印刷
山梨県北杜市須玉町若神子 3931
TEL (0551) 42-2346
